いわて幸福白書 2022

第１部 新型コロナウイルス感染症と幸福

対談「コロナ後を見据える岩手の次なる展望」
岩手県商工会議所連合会会長
盛岡商工会議所会頭 …………………………………… 谷村邦久 氏
岩手県立大学地域政策研究センター客員教授…… 谷藤邦基 氏

第２部 令和4年の幸福トレンド

「未来を豊かに生きる幸福のヒント」 株式会社三菱総合研究所 理事長 …… 小宮山 宏 氏
「日本が目指す幸福は地域の中にある」 幸せ経済社会研究所 所長 …………… 枝廣 淳子 氏

第３部 「希望郷いわて」の今

第４部 データ編

岩手県

2022 いわて幸福白書 はじめに

本県の総合計画「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」は、広く意見を伺いながら、「オールいわて」で策定した計画であり、行政だけではなく、関係団体や企業、ＮＰＯなど多様な主体が10年後の将来像を共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンとなるものです。

本県では、広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復興に当たり、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を原則の一つに掲げ、県民一丸となって取組を進めてきました。

「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」のもと、こうした復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、物質的・経済的な豊かさに加え、心の豊かさを大切にしながら、一人ひとりの暮らしや仕事に着目した施策を推進し、東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てることで、県民一人ひとりが希望を持つことのできる「希望郷いわて」を目指していくこととしています。

「いわて幸福白書」は、こうした考えのもと、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを御紹介するとともに、県の施策や今後の方向について広くお伝えするものです。

国内外で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、令和4年（2022年）に入ってもなお、各方面に大きな影響を及ぼし、収束が見通せない状況が続いています。

このような中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、感染者の少なさなど地方の良さや暮らしやすさが再認識されており、地域づくり、ふるさとづくりにおける大きな転機を迎えています。

こうした地方への関心の高まりを踏まえ、岩手の良さを生かしながら、感染防止対策の徹底を前提に、社会経済活動の回復を図っていくことが、「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」の目標にまっすぐ向かっていくことにつながります。

岩手の先人、宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。

時代の潮流やチャンスを捉えるとともに、「他人とのかかわり」や「つながり」を大切にする岩手県ならではの社会観を生かしながら、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を目指し、みんなで行動していきましょう。

一緒に頑張る仲間のために

利用者さんの健康のために

孫との再会のために

家族の笑顔のために

コロナ禍を乗り越え

復興創生を実現

～希望郷いわてを目指して～

この子の未来のために

常連さんに会うために

将来の夢のために

もくじ INDEX

新型コロナウイルス感染症と幸福

｜岩手県｜北上市｜展勝地｜

新型コロナウイルス感染症 岩手県の対応 2021

滝沢市のツガワ未来館アピオで実施された医療従事者向けのワクチン接種の様子（岩手日報　令和3年5月2日付）

県独自のコロナ対策で感染症から岩手を守る

2019年末に端を発し、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症。2021年に入っても収束する気配はなく、政府は、1月に11都府県に対し緊急事態宣言を発令しました。これを受けて本県では、11都府県をはじめ、感染が拡大している地域との往来を自粛するよう県民に要請。引き続き感染防止を呼びかけ、医療体制の強化に力を入れました。

しかし、3月中旬以降からクラスターが発生するなど新規感染者数が増加し、4月5日時点で県内の病床使用率も28.4%（病床250床）に上昇。5月4日には、県内の新規感染者の累計が1000人を超えました。

本県では一層の感染防止を呼びかけると同時にPCR検査の体制を強化し、早期に県民がワクチンを接種できるよう集団接種会場を準備。一方、飲食店の感染対策を進めるため認証制度を設けたほか、認証を取得した店舗には10万円の支援金を給付しました。

7月に入ると感染力の強いデルタ株の陽性患者が確認されるなど、感染が急拡大している状況を受け、

盛岡市立高の生徒会が医療現場を応援するための寄付金を手渡す様子
（岩手日報　令和3年2月20日付）

データで振り返る 2021年の出来事

1月　2月　3月　4月　5月　6月

岩手県内

1月14日
29都道府県への往来自粛を要請
緊急事態宣言が発令された11都府県との往来を自粛するよう要請。県境をまたぐ移動制限が広がった。

4月5日
年度末の移動で新規感染者増加
年度末の人の移動の増加に伴い、4月に入ってから新規患者数が増加した。

5月4日
県内感染者1000人を超える
岩手県と盛岡市は4日、盛岡、花巻、奥州各市などで14人の新型コロナウイルス感染を発表。県内の累計は1002人となった。

6月19日
県のワクチン集団接種開始
県は19日、一般県民を対象に新型コロナウイルスワクチンの集団接種をスタート。11月21日までの土日に約38,000人に接種を実施。

岩手県の感染者数（棒グラフ）（人）0　10　20　30　40　50　60　70　80

国内・世界

1月7日　1月13日
1都3県に緊急事態宣言さらに対象地域を拡大
政府は東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県に対し、二度目の緊急事態宣言を出したが、13日にはさらに対象地域を拡大。大阪、愛知、福岡など合わせて7つの府県に対しても緊急事態宣言を発令した。

2月3日
国内死者6,000人超
新型コロナウイルスに感染して国内で亡くなった人は、2月3日で6,052人となり、6,000人を超えた。

2月3日
変異株ウイルスの拡大
新型コロナウイルスの変異株・アルファ株による陽性患者が相次いで発見され、全国的に感染拡大の傾向。

4月25日
4都府県に緊急事態宣言
2回目の宣言を解除した以降も感染拡大は収まらず、各地で過去最多の感染者数を記録したため、4都府県に3回目の緊急事態宣言を出した。

5月12日
緊急事態宣言を6都府県にまん延防止は10道県に拡大
東京、京都、大阪、兵庫は緊急事態宣言の期間を延期、さらに愛知、福岡の2県を新たに追加した。

◀ゴールデンウェーク中の東京都（渋谷）で宣伝カーによる外出自粛の呼びかける様子（令和3年5月2日）

▶東京2020大会聖火リレーを本県で実施した様子（令和3年6月16～18日の3日間）

【P.6～7 参考資料一覧】
岩手県新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針・岩手日報・厚生労働省ホームページ・岩手県ホームページ

飲食店に感染予防の徹底と認証制度取得を呼びかける様子
（岩手日報　令和３年６月12日付）

新型コロナウイルス感染症「岩手緊急事態宣言」の発令を発表する様子
（令和３年８月12日）

7月9日には県独自の「岩手警戒宣言」を、8月12日には「岩手緊急事態宣言」を発出。不要不急の外出自粛等の要請や県施設の利用制限等を実施しました。また、更なる感染拡大による医療のひっ迫を避けるため、盛岡市内において8月30日から9月12日まで飲食店等へ営業時間の短縮要請を行いました。

経済活動を活性化する食と旅の応援プロジェクトを推進

感染拡大防止対策への県民の方々の協力やワクチン接種の進行に伴い、9月以降は新規感染者数も減少傾向となり、9月16日には「岩手緊急事態宣言」を解除。これに伴い、地域経済の支援につなげるため、「いわての食応援プロジェクト」や「いわて旅応援プロジェクト」などの需要喚起の取組を再開。新規感染者数もゼロの日が連続するなど、小康状態が続きました。

沈静化しつつあるなか、新たにオミクロン株が出現

基本的な感染対策に引き続き取り組む一方で、県内人口比で約8割の方が2回目接種を終えるなどにより、本県では10月11日から2ヶ月間で、新規感染者数はわずか4名。ほとんどの都道府県でも減少しており、感染リスクがかなり低くなりました。しかし、12月になると日本国内でも、新たな変異株であるオミクロン株による感染が急増し、12月28日には県内初のオミクロン株の感染者が確認されました。1月8日には県内初の市中感染が確認され、2022年も予断を許さない状況となっています。

7月　8月　9月　10月　11月　12月

8月12日
県独自の緊急事態宣言
新型コロナウイルスの感染が急拡大し、直近1週間の新規感染者数（対人口10万人）が15人を超えたことを受け、県は独自の「岩手緊急事態宣言」を出した。

7月9日
県内初のデルタ株確認
インド由来の変異株ウイルスである「デルタ株」の可能性がある感染例が県内で初めて確認され、県は初となる「岩手警戒宣言」を出した。

8月30日
飲食店等への営業時間短縮等の要請
感染者数が多い盛岡市での新規感染者数を抑え込むために、盛岡市の飲食店等に対し、午後8時までの営業時間短縮等の要請を行った。

10月1日
いわて旅応援プロジェクト再開
岩手県民を対象とした「いわて旅応援プロジェクト（第2弾）」を開始。宿泊費等を支援し、経済の活性化を後押しする。

12月28日
県内初オミクロン株の感染
新型コロナウイルスに感染した男性から、オミクロン株の感染が確定したと発表。県内での感染確定はこれが初めて。

全国の感染者数（折線グラフ）
30000 25000 20000 15000 10000 5000 0

感染者累計
岩手県3,490人

2021年12月31日現在

感染者累計
全国1,716,757人

7月23日　**8月24日**
無観客で東京2020大会開幕
緊急事態宣言が継続される中、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開幕。近代五輪史上初めて無観客で開会式や競技が行われた。

8月20日
1日の感染者数最多の25,975人
第5波はピークに達し、8月20日には過去最多の25,975人を記録した。

9月30日
緊急事態宣言まん延防止 すべて解除
8月下旬から新規感染者数が全国的に減少、19都道府県の緊急事態宣言、8県に対する重点措置はすべて解除となった。

7月28日
ワクチンパスポート申請受付開始
ワクチンを接種したことを証明する「ワクチンパスポート」の申請受付が開始。入国時に提示すれば隔離措置の免除や緩和が受けられる。

11月7日
ヨーロッパで感染再拡大
9月末頃から感染拡大が続くヨーロッパでは、7日時点で地域内の半数近い国々で感染者が10%以上も増加している。

12月6日
オミクロン株に日本人が初感染
世界で拡大をしている新たな変異株ウイルス「オミクロン株」に、国内で初めて日本人が感染したことがわかった。

対談

コロナ後を見据える岩手の次なる展望

岩手県立大学地域政策研究センター客員教授
谷藤邦基氏

岩手県商工会議所連合会会長
盛岡商工会議所会頭
谷村邦久氏

新型コロナウイルス感染症によって、岩手の産業や人々の暮らしは多大な影響を受けました。岩手の経済界を牽引する岩手県商工会議所連合会会長であり、盛岡商工会議所会頭である谷村邦久さんに、コロナ後の社会情勢や産業界の見通し、先人から受け継がれる岩手のDNAや今後の展望についてお話を伺いました。

※ この対談は令和3年12月に行ったものであり、発言内容が本冊子発行時点における新型コロナウイルス感染症の情勢と異なる場合があります。

【コロナを振り返って】

谷藤客員教授　コロナのことを振り返ると、色々な影響が出始めたのが令和２年２月頃だと思います。岩手県でも花巻空港発着の上海便、台北便の運休や、クルーズ船の寄港の中止が２月頃に発表されました。インバウンドが規制される中で、観光関連の宿泊業や運輸業などに影響が出始め、次に、対人接触の回避のため、飲食・小売業にも影響が広がっていきました。それが令和３年に入ると、半導体の不足や、サプライチェーンの問題などにより部品やモノが入りにくくなり、製造業にも影響が及んでいきました。こうしたコロナの幅広い影響を見て、どのようにお感じですか。

谷村会長　サプライチェーンのお話がありましたが、多国間の貿易によって社会が成り立っており、私たちの暮らしも、世界の国々との人的交流や文化交流、経済交流など、様々な関わりの中で成り立っているということ、我々は常に世界とつながっているのだということを、今回改めて思い知らされましたね。最近では製造業において、もう一度工場を日本に戻そうという動きもあると聞きます。これは日本経済にとって、自分の足元を見直す良いチャンスではないかと考えています。

谷藤客員教授　半導体に関して、自国回帰の動きは今後、世界的なトレンドになるかもしれません。こうしたコロナ禍の目まぐるしい動きの中で、岩手県は新規感染者が全国47都道府県の中で最後まで出なかったことなど、岩手県の良さが全国的に知られることになったと思います。

谷村会長　岩手は自然環境が素晴らしいこともあり、感染症が広がりにくい清潔なイメージが広がったのではないでしょうか。また、意外と知られていませんが、県民一人ひとりの医学に対する理解が深いのではないかということを強調したいですね。これは、三田俊次郎が東北唯一の私立の医学校として、1897年、盛岡市に岩手医大の前身である医学講習所を作った功績が大きいと思います。また、台北帝大の二代目総長として医学の発展に尽力した三田定則がおり、台湾の衛生事情を改善した後藤新平がいます。彼は新渡戸稲造を台湾に呼び寄せて、砂糖の生産によって台湾の経済を確立しました。たまたま台湾という国で岩手の力が発揮されたわけですが、そうした我々の先達である岩手県人の功績を今は小川彰岩手医大理事長が受け継がれているわけですが、このようなことが、県民一人ひとりがしっかりした衛生観念を持つことにつながっているのだと思います。

【岩手が持つ可能性】

谷藤客員教授　コロナの収束は見通しが立ちにくいですが、この先を考えた際、岩手のポテンシャルについて、どのようにお考えですか。

谷村会長　県民一人ひとりの衛生観念の高さのほか、注目すべきはスポーツですね。野球では、大谷翔平さん、菊池雄星さん、佐々木朗希さん、ジャンプでは小林陵侑さん、スノーボードでは岩渕麗楽さん。世界的に活躍する彼らが、なぜ岩手から輩出されたのか。岩手は米をはじめ食べ物や水がおいしいと達増知事はおっしゃっています。まさにその通りだと思いますし、豊かな自然など生活環境の良さもあると思います。

谷藤客員教授　コロナ禍でテレワークが進展するなど、必ずしも東京にいなくても様々な仕事ができる状況となり、地方にとってはチャンスであると思います。こうした点で、岩手の強みとして発信すべきものはありますか。

谷村　邦久
やむら　くにひさ

岩手県商工会議所連合会会長。盛岡商工会議所会頭。盛岡市出身。1950年生まれ。東京外語大卒。1994年にみちのくコカコーラボトリング株式会社代表取締役社長に就任し、現在は代表取締役会長。2013年から岩手県商工会議所連合会会長、盛岡商工会議所会頭を務める。

谷藤　邦基
たにふじ　くにき

株式会社イーアールアイ取締役。岩手県立大学地域政策研究センター客員教授。財団法人岩手経済研究所主席研究員として、岩手県の行政委員会、審議会委員等を多数務め、専門的な知見や県民の視点に基づく助言など、行政経営の推進に貢献。令和２年、岩手県より行政経営功労者表彰を受ける。

谷村会長　デュアルライフ、東京一極集中という言葉をきくと、私は岩手の文化向上や、文学の後輩の育成に多大な貢献をされている作家の高橋克彦さんのことをすぐに思い浮かべます。高橋さんは昔から盛岡を拠点に作家活動をされています。大手出版社の編集者がわざわざ盛岡まで作家詣でをしているわけです。高橋さんの信条かもしれませんが、こんにちを予測していたように私には見えます。

谷藤客員教授　そういう岩手の良さが様々あるわけですが、これからの岩手の展望をどのようにお考えですか。

谷村会長　国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の誘致が実現できれば最高ですね。これは岩手のためだけでなく、技術創造立国・日本になるための最大の武器になると思います。

【岩手県人の長所】

谷藤客員教授　岩手は、政治、学術、文化など様々な分野で多くの偉人を輩出していますが、それはなぜだと思われますか。

谷村会長　岩手県人の長所をひと言で説明するとすれば、私は「開明性」だと思います。中国の言葉にもあるようですが、「開明性」とは自由で開かれた、将来を見越した考えを持っていることです。こうした気質が育まれてきたことが、岩手県人の強みだと思います。また、歴史は巡り、原敬が亡くなって１世紀が経ちますが、そろそろ岩手から総理大臣になるような人材が出てきてほしいですね。

【県民へのメッセージ】

谷藤客員教授　来年は、「岩手県」という名称になって150周年を迎えます。歴史を振り返るにはちょうどいいタイミングです。私たちは、どのように歴史と向き合えばいいでしょうか。

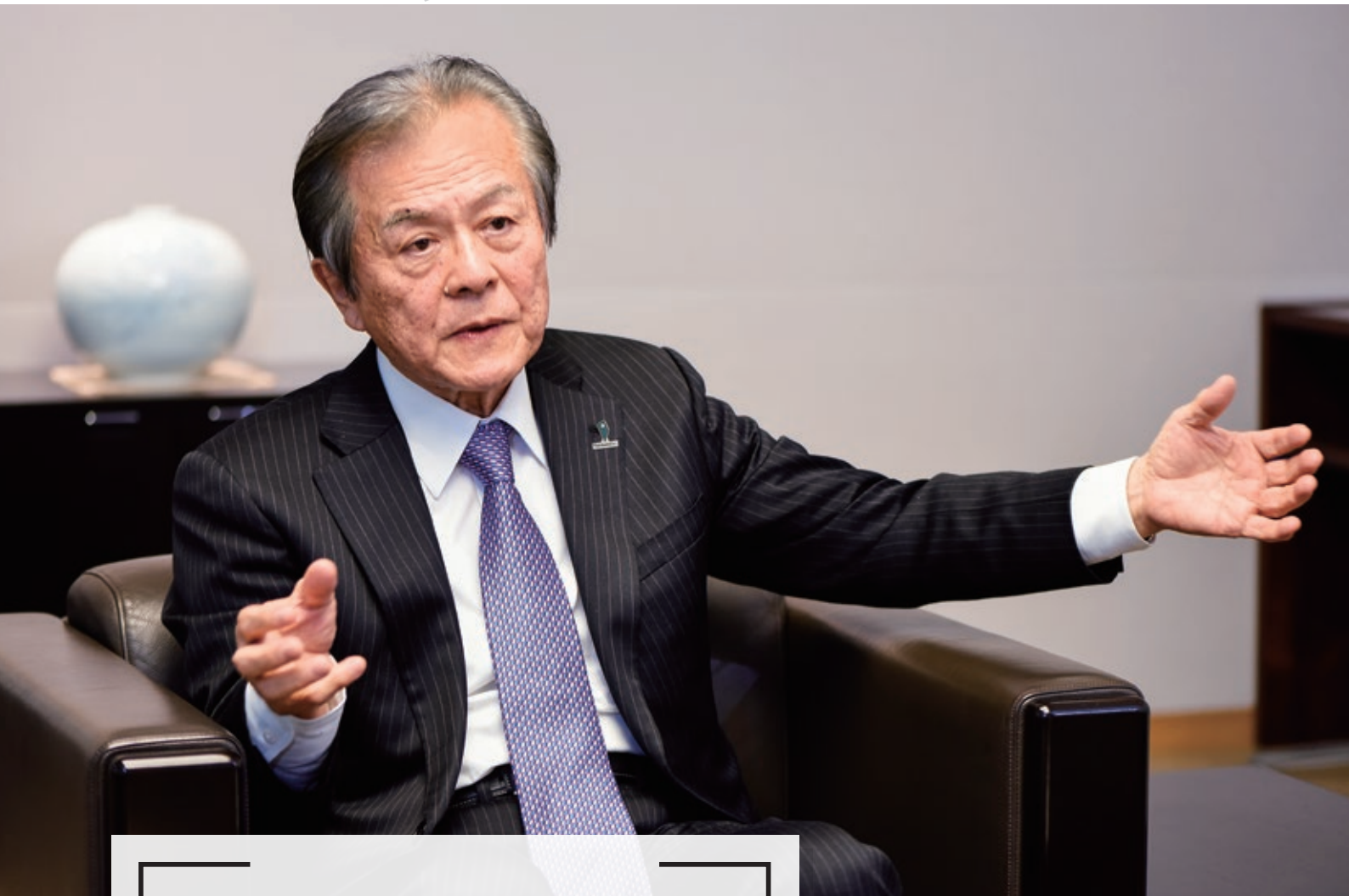
谷村会長　岩手には、高いポテンシャルや将来性があります。そうした岩手の魅力や価値を、我々県民一人ひとりがもっと掘り下げ、再発見していく必要があります。そのために歴史を読み、歴史から学び、未来を志向することが大切だと思いますね。明治・大正・昭和と、日本という国を牽引してきた岩手の先人たちのおかげで、今、私たちも幸福を感じることができているのですから。

谷藤客員教授　最後に、県民の皆さんにメッセージをお願いします。

谷村会長　幸福は最も日本人に馴染みのある言葉で、人間にとって一番大切なものです。物質的に恵まれた人が必ずしも幸福だとは感じていないかもしれませんし、苦労して何かに挑戦している人が、今の自分の置かれている立場に幸福感を抱きながら、乗り越えてやろうと思っている、そういう幸福もあると思います。日本人が忘れかけていた大事な精神を呼び戻してくれる言葉だと思います。岩手の場合は、都会に比べて所得などは低いかもしれませんが、都会にはない自然や文化があり、人間がいて、それだけ様々な尺度で捉えられる幸福があるわけです。そのことを噛みしめて「幸福になってください」と伝えたいです。また、岩手にお住まいでない方にも、このように様々なポテンシャルを秘めている岩手に、ぜひお越しいただきたいですし、起業しませんか、とお伝えしたいです。

（インタビュー日：2021年12月21日）

第2部
令和4年の
幸福トレンド
｜岩手県｜宮古市｜浄土ヶ浜｜
いわて幸福白書2022

インタビュー 1

未来を豊かに生きる幸福のヒント

株式会社三菱総合研究所 理事長

小宮山 宏 氏

こみやま ひろし

株式会社三菱総合研究所理事長。東京大学工学部卒業、同大学院工学系研究科修士課程・博士課程修了。工学博士。東京大学工学部 助教授、教授、同大学院工学系研究科長・工学部長、2003年同大学副学長を経て、2005年4月から2009年3月まで東京大学総長。2009年4月より東京大学総長顧問、三菱総合研究所理事長。

高齢化が加速する将来を見据えた「プラチナ社会」の提唱や「ウェルビーイング」の研究などを通し、これからの日本が目指す新しい社会の姿や生き方を提示する、三菱総合研究所理事長の小宮山宏さん。コロナ後の社会を踏まえた幸福のトレンドや、将来的に岩手が向かうべき方向性について、お話を伺いました。

――　小宮山理事長は、プラチナ社会を提唱されて以来、一貫して「ビジョンを掲げ、行動する」ことの大切さを訴えていますが、その重要性をどのようにお考えですか。

小宮山理事長　今の時代は、人類全体が大きな転換期に入ってきています。長い歴史を振り返ると、これまで人類にとって一番大事な目的は、飢えずに食べられるということでした。ところが産業革命などを経て、物質的にも豊かになり、現在、先進国の人々の多くは食べることに困っておらず、当初の目的は達成されてしまったのです。達成されていない間は、その指標としてGDP（国内総生産）がマッチし、それがビジョンだった。それが達成されてしまった今、プラチナ社会では、これからどのような社会を目指して生きるのが必要だろうかと考えたのです。地球が持続し、今の物質的な豊かさは維持したままで、人の自己実現を可能にする、そういう社会をビジョンとするのがプラチナ社会の基本的な考え方です。

――　プラチナ社会のフィールドとして「地方」に着目されていますが、それはなぜでしょうか。また、地方にどのような期待を持っていらっしゃいますか。

小宮山理事長　長期的に見ると、人間の行うビジネスの中身が激しく変わっていきます。現在では、資源を自由に使って、モノを大量に作る必要はなくなりましたし、成り立ちません。地球温暖化は誰もが実感していますよね。そうなると、石油や石炭の代替資源として注目されるのが木材です。日本は今、使用する木材の3分の2を輸入に頼っています。確かに日本の山は傾斜がきつく、かつて人が登り、馬が引っ張るという時代には大変でしたが、科学技術が進歩している現代では、本気で取り組めば、日本は自給どころか輸出できるだけの森林資源を保有しています。

――　令和元年に岩手で「プラチナ懇談会」が開催されましたが、県北地域で取り組みを進める中で、岩手県にはどのような可能性があると思いますか。

小宮山理事長　これからの時代、エネルギーは全て再生可能エネルギーに変わっていきます。日本は小さな国だから、風力も水力も不足しているという人がいますが、それは大きな誤解で、正確に計算すれば十分な資源があるのです。このような中、再生可能エネルギーの木材資源、食料、こういうものをどこで生産するかといえば、全部地方が供給することとなります。地方は、風力も水力も木材資源も潤沢にあり、必要な食料も自給することができる可能性に満ちたフィールドなのです。例えば、

新たに木材を生産する産業が生まれれば、その場所にはスーパーマーケットや理髪店、カフェなど、様々な店ができる。これを「産業連関」というのですが、日本がエネルギーや資源の輸入にかけている年間 30 兆円規模のお金をすべて自給することで、それに関連して 50 兆円もの新たなビジネスが地方に生まれるのです。そのうち、森林産業は 10 分の1、5兆円規模になるのです。岩手県でも、県北部の「北いわて」で新たな森林産業が動き始めていますが、極めて将来性の高い産業だと思います。

―― 本県は「幸福」をキーワードに地域づくりを進めていますが、人生 100 年時代に向けて、どのようなことが必要でしょうか。

小宮山理事長 私は「丸の内プラチナ大学」というビジネスパーソンを対象としたスクールの学長をしています。当初、50 代の人が第二の人生を考えるために来るのだろうと思っていたのですが、30 代の方も少なくなく、驚きました。人生 100 年時代をリアルに捉え、若いうちから将来に備えなければいけないと考える人が、どんどん増えています。しかも、いずれは地方に行きたい、戻りたいと思っている人も多いのですが、雇用をはじめとしたチャンスがない。非常にもったいないですね。

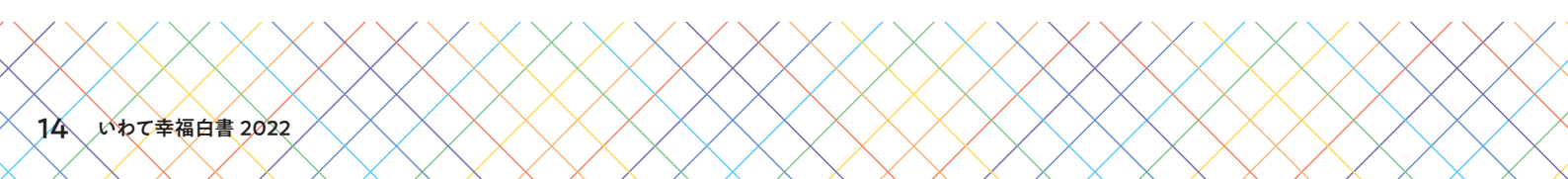
―― コロナ後の社会の中で、「課題先進地」でもある地方は、どのようなビジョンを掲げ、努力するべきだと思われますか。

小宮山理事長 そろそろ地方も、本気になるタイミングに来ていると思います。大転換の時代ですから、大事なのは、「制度」ではなく、本気で立ち上がる「人」です。このまま何もしなければ、少子高齢化が加速して、30 年後には自治体が消滅するかもしれない。こうした危機感を持って、本気で立ち上がる人が既に出始めていると思います。

―― 新たなビジネスを創り出すためには、リスクも伴います。

小宮山理事長 リスクを取る覚悟がなければ、何も始まりません。新しく事業を始めるには、資金を集める必要があります。県も民間企業も住民も出資して、みんなでビジネスを応援できる新しいファイナンスの仕組みができるといいと思います。お金はその気になれば集められますから、大事なのは誰が中心となって引っ張っていくかです。これは、私は自治体よりも大学だと思います。なぜなら、新しく何かを始めようとすると、様々な壁にぶつかります。自治体では制度的な問題もあり、役所的な手続きが必要とされ、なかなか前に進まない場合が多いかもしれませんが、大学であれば、問題を突破できる可能性があると思います。

―― 岩手県立大学でも地域振興や地域産業に関する研究には力を入れていますが、最近では若い学生たちの関心も非常に高まっています。

小宮山理事長 課題解決に向けては、今ある知識で概ね対応が可

能であり、必ずしも最先端の知識が必要ではありません。大学だけでなく、私が期待しているのは一関工業高等専門学校の学生たちです。彼らは電気と機械の知識を持ち、実際にものづくりができますから、AIなどの新たな技術を学べば即戦力です。

―― AIの導入が、変革のポイントなのですね。

小宮山理事長　地方の人手不足は逆にチャンスなのです。若い後継者が一人帰ってきたとして、AIを活用すれば 10 人分の仕事をすることができる。つまり、一人で複数人分の収入を得られるわけです。

―― ウェルビーイングという考え方が注目されています。

小宮山理事長　単に生活のための食事と老後への備えが確保されていれば幸福なわけではなく、自分が社会の中でみんなと一緒に意味のあることをやっていく。その中で自分に役割があるという状態が人間にとっての幸福ではないかと思います。何か大きな目標があって、そのために仲間と一緒にやっていく、それがプラチナ社会だと思っています。「地方から東京に出て行って、東京で一旗あげる」というのは古い思想です。

―― 大きな目標を共有し、自分のできるやり方で社会に参加していくわけですね。それは一人ひとりのダイバーシティでもあり、価値観が尊重されてこそ役割も生まれるかと思います。

小宮山理事長　多様性に富む社会のほうが面白いと確信しています。シニア・学生・子どもの触れ合いは、大家族で暮らしていた時代には普通にありましたが、今は自然には生まれません。

―― 県民の皆さんにメッセージをお願いします。

小宮山理事長　「若い人をエンジンに立ち上がりましょう」ということです。若い人たちをエンジンにして、本気でビジネスを創り、自立していくことが大切です。東京にはお金が注がれているから、キラキラして見えますが、未来は地方にあります。新しいものを作っても、新幹線の駅のように、どこに行っても同じであることは必ずしも良いことではありません。岩手は、守るべきものを守ったほうがいいと思います。本気の人達が立ち上がり、岩手ならではの、新しいビジネスが生まれることを期待しています。

（インタビュー日：2021年12月21日）

インタビュアー

役重 眞喜子　やくしげ まきこ

岩手県立大学総合政策学部講師。1989年東京大学法学部卒業。農林水産省、岩手県東和町役場、花巻市役所勤務を経て、2016年岩手大学連合農学研究科博士課程修了、2019年より現職。専門は行政学。地方自治、市民協働、地域コミュニティに詳しい。

インタビュー 2

日本が目指す幸福は地域の中にある

幸せ経済社会研究所 所長

枝廣 淳子 氏

えだひろ じゅんこ

大学院大学至善館教授。東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。同時通訳者を経て、翻訳家・環境ジャーナリストとして活動。 2007年、ノーベル平和賞を受賞したアル・ゴア氏の著書『不都合な真実』を翻訳し注目を集める。

持続可能な未来に向けて、新しい経済や社会のあり方、幸福度を高めるための考え方などを研究するほか、島根県海士町をはじめ、様々な地方創生プロジェクトに関わる、幸せ経済社会研究所所長の枝廣淳子さん。これからの時代を幸せに生き抜くためのヒントや、地方の自立と地域経済の関係性について、お話を伺いました。

――　枝廣所長は「幸福」をどのように捉えていますか。

枝廣所長　「幸福」は主観的であり、それを政策の対象とするのは難しいですね。刹那的な幸福は「ヘドニア」と呼ばれていますが、それに対して、私たちの研究所では「ユーダイモニア」という長期的に続く幸福を研究しています。これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄の時代は、モノを買えば幸せになるとか、豪華な食事であるとか、刹那的な幸福感が大事にされていましたが、東日本大震災津波の影響もあり、刹那的な幸福よりも安定的な幸福が重要視されてきています。長期的な幸福感においては、何かあっても立ち直れる、自分は大丈夫だというしなやかさ、いわゆる「レジリエンス」が重要と考えています。

――　コロナ禍によって、幸福にどのような変化が生じていると考えていらっしゃいますか。

枝廣所長　他との比較で幸福を定義するのではなく、他人がどうであれ「自分は幸福だ」と感じる、主体的な幸福感が大切だと思います。世の中の状況が変わっていく中で、「自分はこれで良いのだ」という幸福感を持っていると、たとえコロナ禍であっても、そんなに変わらずにいることができます。令和３年の岩手県の県民意識調査で、コロナ禍でも幸福度が下がらず微増というのは、素晴らしいことです。環境が変わったとしても人々の幸福を支えているのは何か。そこを今、切り込んでいけるチャンスかもしれません。

――　コロナ後の社会を見据えた時に、幸福をどのように考えるとよいのでしょうか。

枝廣所長　幸福感で一番大切なのは、「自分はこれで良いのだ」と思えることですが、そこにコロナが与える影響は、心理学的に、長期的に見ていかなければいけません。コロナ後の幸福を考えると、これまでのように人やモノが距離に関係なく移動してお金を稼ぐことが幸福であるというより、移動できる範囲が狭まったとしても、その範囲の中で、グローバル経済ではなく地域経済の中でやり取りできる安心感というのでしょうか、それが人々の幸福感にも大きく影響すると思います。

――　デジタル化が進むと様々な可能性が広がりますが、それを踏まえた上で、これからの社会をどのようにお考えですか。

枝廣所長　デジタル化の進展は素晴らしい面があり、例えば、入院を余儀なくされている方、障がいをお持ちの方など、これまで主流派ではなかった人たちが表舞台に加わることができます。一方で、人と人との触れ合いなど、どれだけデジタル化が進んでも、明け渡してはいけない領域があり、そこを明け渡してしまうと幸福度にマイナスの影響を与えてしまうと考えます。

――　これからの新しい時代、地方はどのように存在感を示していくべきでしょうか。

枝廣所長　未来は地域にしかな

い、と私は考えています。中央の各省庁で方向性を決めたり、政策を決めたりすることはできますが、実際に物事が動くのは地域です。日本という国があるわけではなくて、地域が集まってできているのが岩手県であり、日本であるわけです。一つ一つの市町村が自分の足で立てるようになっていく、そういった地域が集まった国というのは強いと思います。これまでのように、東京からどれだけお金が来るだろうかということではなく、市町村が個々の力を発揮しながら、自立に向かって進んでいく。それを県が応援していくというようなやり方になっていくのではないでしょうか。

―― 岩手県の魅力や潜在可能性を、どのように感じていらっしゃいますか。

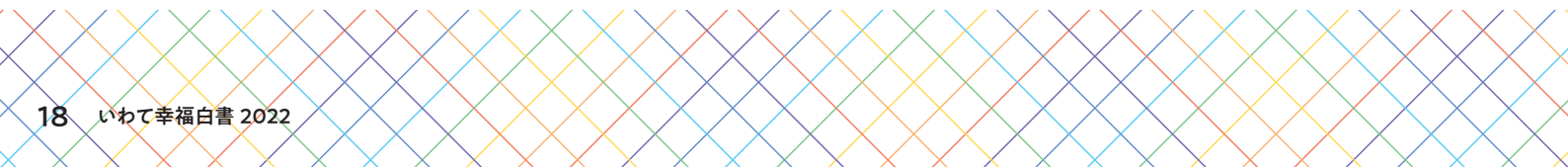
枝廣所長　経済を成り立たせている資本には、金融資本や生産資本のほか、自然資本、社会関係資本がありますが、幸福度の観点からは、人と人とのつながりである社会関係資本がより大切です。岩手県は、自然資本と社会関係資本の両方が豊かであり、それらを最大限に生かすことができる潜在可能性があると思います。

―― 島根県の海士町のように地方創生を成功させるには、どのようなポイントがありますか。

枝廣所長　海士町もそうですが、地方創生で良い動きをしているグループは、強い危機感を原動力として動いています。しかし危機感だけで動かし続けるのは困難なので、危機感経営からビジョン経営へ、逃げたい現実ではなく、こうありたい町になるために、みんなで共有ビジョンを作って向かっていこうというまちづくりに変わろうとしています。成功している自治体の例を見ると、首長がリーダーシップをとって進めていくパターン、先見の明があり熱い思いを持った複数の自治体職員が引っ張っていくパターン、民間で熱意のある人たちがグループを作って引っ張るパターンのどれもあります。これらを組み合わせられれば最強ですが、逆にどれも無い場合は、難しい状況となります。地域のこれからを変えていくには、これまで通りではいけませんが、どの自治体もそれぞれ模索中というか、確立されたプロセスがあるわけではありません。プロセスを模索することを選ぶか選ばないか、それ自体が最初の試金石となります。

―― 先生の著書の中に、「リ・ローカリゼーション」という言葉がありますが、どのような考え方でしょうか。

枝廣所長　これは世界的なトレンドで、「リ」というのは再びという意味ですが、もう一度地域を中心

に据えようという考え方です。もともと経済というのは、身近な地元の経済から始まっています。それぞれの町や村で経済活動を行っていて、徐々に流通網が発展するに従ってエリアが広がり、今やグローバル経済となっています。グローバル経済のメリットはたくさんありますが、それに手綱を渡しすぎてしまったのではないでしょうか。地産地消という言葉がありますが、私はあえて「地消地産」という言い方をしています。これは、地域で使うものは地域で作りましょうよ、という意味で使っています。そうすると、外の経済に頼る割合を減らしていけますので、災害やコロナなど、何か起こった時でも自分たちで経済を回していくことができます。例えば、海士町では「ハーン」という地域通貨があります。これを町の人たちは日本円のように使っており、町内のお店のレジには、円のほかにハーンが入っています。仮に日本

円が暴落して価値がなくなったとしても、海士町の人たちはハーンでやり取りを行うことができ、経済活動は止まりません。

―― 地域の持続可能性と幸福との関係をどのように考えますか。

枝廣所長　ここで暮らすことが幸せだと思う人が多ければ多いほど町に定着しますし、幸せそうな様子を見て他からも入ってくるし、それは町の持続性につながります。東京から地方に移住した若い友人の話を聞くと、「給料は3分の1になったけど、東京にいた時よりずっと幸せだ」と言っています。その理由を聞くと、周りの人とのコミュニティの中で生かされている、という感覚になってくるとのことです。こうした人と人とのつながりは、田舎では当然のことですが、都市では失われてしまったものです。それこそが東京や大都市の人々が心の底で求めていることだと思いますし、お金では決して解決できないものです。

―― 地方では若者の都市部への流出が課題となっていますが、特に女性がなかなか戻ってこない。ヒントがあれば教えてください。

枝廣所長　徹底的に「女性に選ばれる県」になるよう努力し続けることしかありません。もちろん、子育て支援や移住策は大切ですが、岩手で生活して仕事をすることが、自分の生きがいややりがいにつながるという実感を持てるかどうかだと思います。経済的な豊かさを多少犠牲にしても、心の豊かさを選ぶ人が増えてきています。東京で働いている女性たちと話をしても、そこが満たされなくてモヤモヤしている女性たちが多いのです。多くの自治体は、移住策や女性の引き止め策として金銭的な支援を行っていますが、そういった物理的なもので幸福感を満たすより、まさに岩手県が試みているように、心の豊かさを満たすことができれば、地方のチャンスはもっと広がるのだと思います。

―― 最後に県民にメッセージをお願いします。

枝廣所長　私たちの生活・社会・経済を揺るがすことが起こった時、それは、前よりも、強い地域、幸せな地域に変わっていくためのきっかけになるのだと思います。コロナが終わったらコロナ前に戻るというよりも、その中で学んだこと、新たに見出した価値、再発見した大切さと共に、次の時代を生きていく。県民が安心して幸せに暮らしていける、それも今の世代だけではなくて、子どもや孫の時代になっても幸せに暮らし続けられる岩手県とはどのような県なのか、ということが問われていると思います。岩手は自然資本と社会関係資本が豊かであり、幸福度という観点から見ると、金融資本や生産資本が豊かである地域よりもずっと強いと思います。例えば今、温暖化がこれだけ大きな問題になっていますが、豊富な森林資源などを有する岩手県は、二酸化炭素を吸収する大きな力を持っています。岩手にあるこうした大きな可能性をいかに顕在化していくか。それは、すごく前向きで楽しいプロセスになると思います。今後、岩手の可能性が広がっていくことを期待しています。

（インタビュー日：2021年12月17日）

いわて県民計画(2019～2028)の先進性

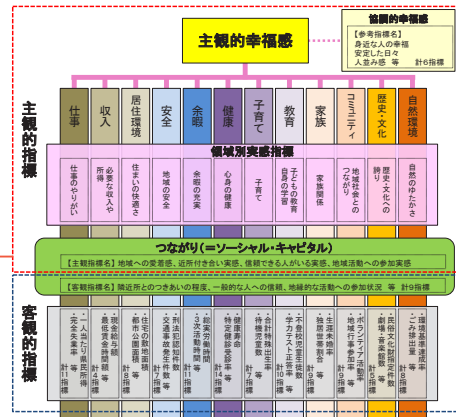
「幸福」をキーワードに掲げる県民計画

　近年、幸福の概念を政策に反映させようと試みる自治体が増えていますが、総合計画の政策体系は、「保健福祉」や「商工業」といった従前どおりの政策ベースとするケースが多い状況です。

　これに対し岩手県の総合計画である「いわて県民計画（2019～ 2028)」では、外部有識者で構成される「岩手の幸福に関する指標」研究会から報告のあった「県民の幸福感に関連する12の領域」を基に、「健康・余暇」や「仕事・収入」などの10の政策分野を設定しており、このような県民の幸福に基づいた政策体系は、全国的に先進的な事例として注目を集めています。

事例1　国会における紹介

　令和２年11月５日(木)の参議院予算委員会の質疑において、本県の幸福に関する指標体系が先行事例として取り上げられました。

▲ 国会審議の様子(出典：参議院ＨＰ)

▲ 岩手の幸福に関する指標の体系
(出典：H29.9「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書)
※体系図の詳細は、P40を御覧ください。

事例2　国の調査報告書における紹介

　2021年９月に内閣府が公表した「満足度・生活の質に関する調査報告書2021」において、Well-being に関する地方公共団体の指標群の例として、「岩手の幸福に関する指標」が掲載されました。

「満足度・生活の質に関する調査報告書2021」 抜粋 （地方公共団体における指標群）

　我が国の地方公共団体においても様々な指標群が策定されている。その多くで、内閣府や諸外国と同様に、主観指標・客観指標の双方を盛り込み、経済・社会について多面的な角度からとらえようとしている。

　例えば、岩手県では、「岩手の幸福に関する指標」を選定し、主観的指標と客観的指標を組み合わせた報告書を毎年作成している。また、県独自のアンケート調査を実施し、標準的な幸福度指標だけでなく、仕事・子育て等の12分野別の「実感指標」を調査するとともに、日本人が他者との協調性や他者の幸福、平穏な感情状態に焦点を置く傾向があるとの考えから、「協調的幸福感」として5項目の調査を実施している。

第3部

「希望郷いわて」の今

｜岩手県｜一戸町｜御所野遺跡｜

いわて幸福白書2022

第3部の概要

第３部では、県民の幸福感の現状や、県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果を紹介します。
県民の幸福感の現状については、毎年実施している県民意識調査（注１）の調査結果の中から、「主観的幸福感」、「幸福かどうかを判断する際に重視した事項」、「分野別実感」の結果を掲載しています。
県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果については、26ページ以降、「いわて県民計画（2019～2028）」（以下「いわて県民計画」という。）に掲げる10の政策分野ごとの政策評価の結果をダイジェストで掲載しています。
なお、10の政策分野の概要は、24ページをご覧ください。

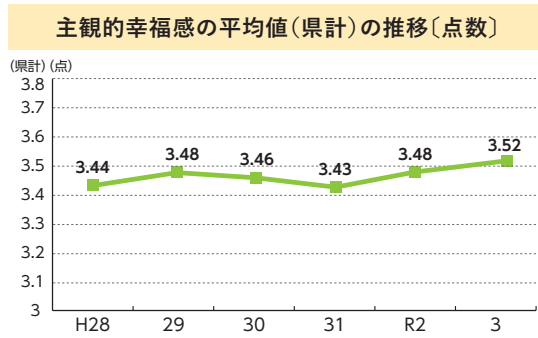
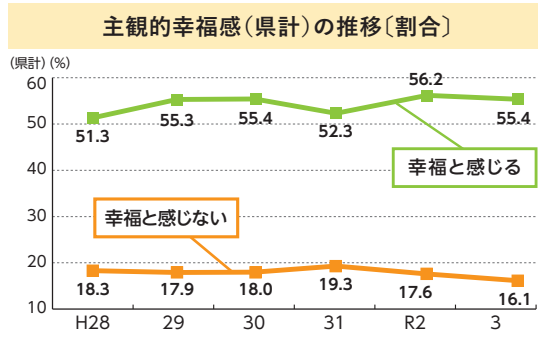
※ 26ページ以降の「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」は、令和３年11月に公表した「政策評価レポート2021」を基に作成しているため、記載内容は公表当時のものです。「県民の幸福度向上に向けた県の取組や成果」の見方は25ページをご覧ください。

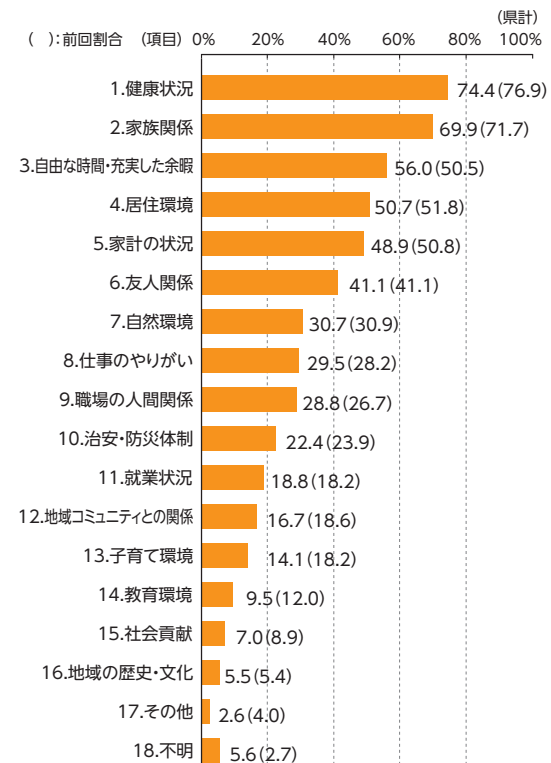
県民の幸福感の現状

主観的幸福感

県民意識調査で、「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で把握したものです。
その結果、幸福と感じている人の割合は上昇しています。
また、「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」までの５段階の選択肢に応じて５点から１点を配点したところ、県全体の平均値は、５点満点中3.52点となりました。

主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕

主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

幸福かどうかを判断する際に重視した事項

県民意識調査で、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に対し、下表の17の項目から該当する全てを選択いただいたものです。
その結果、幸福かどうか判断する際に重視する割合が高い順に「健康状況」、「家族関係」となっています。

分野別実感

県民意識調査で、「現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。」という設問に対し、下表の12の分野別実感を回答いただいたものです。

いわて県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、４分野で上昇、４分野で横ばい、４分野で低下が見られました。

実感の平均値が高い順に「自然の豊かさ」、「家族関係」、「地域の安全」となっています。なお、「自然の豊かさ」の実感は、４点を超えています。

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		H31（基準年）	R3（当該年）	H31とR3の差
Ⅰ 健康・余暇	(1)心身の健康	3.00	3.07	↑ (0.07)
	(2)余暇の充実	3.05	2.97	↓(△0.08)
Ⅱ 家族・子育て	(3)家族関係	3.84	3.85	- (0.01)
	(4)子育て	3.08	3.16	↑ (0.08)
Ⅲ 教育	(5)子どもの教育	3.10	3.20	↑ (0.10)
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	(6)住まいの快適さ	3.34	3.31	-(△0.02)
	(7)地域社会とのつながり	3.35	3.09	↓(△0.25)
Ⅴ 安全	(8)地域の安全	3.82	3.76	↓(△0.06)
Ⅵ 仕事・収入	(9)仕事のやりがい	3.54	3.49	-(△0.05)
	(10)必要な収入や所得	2.65	2.77	↑ (0.13)
Ⅶ 歴史・文化	(11)歴史・文化への誇り	3.28	3.18	↓(△0.11)
Ⅷ 自然環境	(12)自然の豊かさ	4.21	4.18	-(△0.03)

(注) ①( )は基準年調査との差。なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。
② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記しています。

岩手県の政策評価

県では、いわて県民計画の実効性を高め、県民の幸福度の向上に向けた取組を着実に推進していくため、政策評価を実施しています。

10の政策分野の政策評価では、各政策分野に設定した、幸福に関連する客観的指標（いわて幸福関連指標）の達成状況に加え、県民意識調査で把握した政策分野ごとの実感(注2)、参考指標(注3)、社会経済情勢等を踏まえ、総合的に評価をしています。

評価区分	10の政策分野の総合評価の基本的な考え方
A	政策分野ごとに、全ての指標が目標達成率80%以上（指標達成度(注)【A】又は【B】）であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいることから、引き続き取組を推進するもの。
B	政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け概ね順調に進んでおり、一部見直しを行いながら、引き続き取組を推進するもの。 ※全ての指標が目標達成率80%以上であっても、県民の実感が基準年（H31年）と比べ「低下」している場合には B とする。
C	政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数未満であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向けあまり順調に進んでいないことから、一部見直しのほか、より効果的な取組を検討するなど、一層の施策の推進が必要なもの。 ※目標達成率80%以上の指標が半数以上であっても、県民の実感が基準年（H31年）と比べ「低下」している場合には C とする。
D	政策分野ごとに、目標達成率60%未満（指標達成度【D】）の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいないことから、見直しや改善を行うなど、更なる重点的な施策の推進が必要なもの。

(注)
指標達成度の判定区分

【A】100%以上
【B】80%以上 100%未満
【C】60%以上 80%未満
【D】60%未満

（注1）県民意識調査について

県では、県の施策に対する実感などを把握するため、「県の施策に関する県民意識調査」を実施しています。

調査の概要は次のとおりです。

①調査対象　県内に居住する18歳以上の男女
②対象者数　5,000人
③抽出方法　選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
④調査方法　設問票によるアンケート調査（郵送法）
⑤調査時期　毎年1～2月
⑥回 収 率　令和３年調査は71.0%(3,549人/5,000人)

（注2）政策分野ごとの実感（分野別実感）について

県民意識調査では、政策分野に関連する実感を把握し、各政策分野の政策評価に活用しています。

なお、県民の幸福を下支えする共通土台として設定した「Ⅸ社会基盤」、「Ⅹ参画」の2分野については、関連する実感を把握していません。

（注3）参考指標について

県民の幸福に関連する統計データであるものの、毎年実績値を把握できないものや、個人の選択の自由に関連するものなど、目標値を設定して管理することになじまない統計データについては、「参考指標」として位置付けています。

参考指標の動向は、政策分野を取り巻く社会情勢の変化等とともに、政策分野の総合評価に反映されます。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと
一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

　県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成するあらゆる主体とともに、「10 の政策分野」の取組を展開していきます。

評価結果 C

健康・余暇分野 （P26～）

　健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。

評価結果 B

家族・子育て分野 （P29～）

　家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。

評価結果 B

教育分野 （P32～）

　学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。

評価結果 C

居住環境・コミュニティ分野 （P35～）

　不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。

評価結果 B

安全分野 （P38～）

　災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。

評価結果 B

仕事・収入分野 （P41～）

　農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。

評価結果 C

歴史・文化分野 （P44～）

　豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。

評価結果 B

自然環境分野 （P46～）

　一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。

評価結果 B

社会基盤分野 （P49～）

　防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。

評価結果 D

参画分野 （P51～）

　男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。

「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」の見方

●政策分野名
10の政策分野名と政策分野の取組方向を記載しています。

●指標
いわて県民計画長期ビジョンに掲載しているいわて幸福関連指標の動向を中心に記載しています。詳しくは[いわて幸福関連指標の達成状況]をご覧ください。

●政策分野の総合評価
いわて幸福関連指標の状況、政策分野に係る県民の実感、政策分野の取組状況、他の主体の取組状況についてまとめた上で、当該政策分野の総合評価を A B C D の4段階で判定したものを記載しています。

●いわて幸福関連指標の達成状況
いわて幸福関連指標の目標値や令和2年度の値などを記載しています。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値や順位を測定できない指標は「—」と表示しています。

●実感
幸福に関連する分野の実感の動向を記載しています。詳しくは[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]をご覧ください。

●いわて幸福関連指標の達成度
政策分野ごとのいわて幸福関連指標の達成度の構成比と指標数を円グラフで表示しています。
※構成比は、端数四捨五入の計算のため、100%にならない場合があります。

●全国順位(東北順位)
いわて幸福関連指標の、全国順位・東北順位を平成29年度現状値と比較しています。

●県民意識調査の結果
令和3年県民意識調査で得られた分野別実感の平均値の状況を記載しています。
【分野別実感の平均値の算出方法】
各調査項目の回答について、「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したものです。
【比較】
分野別実感の平均値について、基準年(H31)との比較において、次の結果であったものを記載しています。
上　昇：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、上昇した場合
横ばい：t検定の結果、5%未満で有意な変化が確認できなかったもの。
低　下：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、低下した場合

●取組状況
政策分野の取組方向を実現するための令和3年度の県の取組状況を記載しています。

●今後の取組方向
政策分野の取組方向を実現するための政策推進上の今後の取組方向を記載しています。

●参考指標
いわて幸福関連指標を補完するために設定した参考指標の状況を記載しています。

10の政策分野に対応するいわて幸福関連指標の状況
いわて幸福関連指標の指標名、目標値や令和2年度の目標に対する達成度などを記載しています。
【目標達成率の計算式】
・通常の指標(H29現状値から数値を上げる目標)
(R2実績値－H29現状値)／(R2目標値－H29現状値)×100
・マイナス指標(H29現状値から数値を下げる目標)
(H29現状値－R2実績値)／(H29現状値－R2目標値)×100
・維持指標等(H29現状値を維持する目標等)
(R2実績値)／(R2目標値等)×100
※なお、累計指標のうち、この計算式により難い場合は、次の計算式により算出しています。
(R2実績値)／(R2目標値)×100

指標達成度	目標達成率
達　成 A	100%以上
概ね達成 B	80%以上100%未満
やや遅れ C	60%以上80%未満
遅　れ D	60%未満

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

健康・余暇

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手

実感　「心身の健康」は上昇、「余暇の充実」は低下しました。

指標　「健康寿命」は男女とも C 、「余暇時間」は D となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

健康的な食事推進マスター養成

しっかり食べても内臓脂肪をためにくい食事の普及啓発活動を推進する人材を育成するための養成講座を開催しました。

いわて医学奨学生セミナー2021

現役医学奨学生の有志による実行委員が主体となり、医学奨学生と先輩医師との交流などを目的としたセミナーをオンライン形式で開催しました。

シルバーリハビリ体操指導者養成講習会

シルバーリハビリ体操指導者を育成し、地域における高齢者等の通いの場づくりと住民主体の介護予防の実践を支援しました。

岩手芸術祭総合フェスティバル

新型コロナウイルス感染症の影響により来場できない人も鑑賞できるよう、オンライン配信を取り入れた「岩手芸術祭総合フェスティバル」を開催しました。

岩手県障がい者スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、「岩手県障がい者スポーツ大会」を開催しました。

県立博物館40周年特別企画展「みる!しる!わかる!三陸再発見」

県立博物館の開館 40 周年を記念し、「三陸」をテーマとした自然や文化に関する特別企画展を開催し、展示の内容をより深く理解してもらうため、展示解説会を実施しました。

今後の取組方向

- ○ 官民が一体となって生活習慣病の予防対策に取り組むとともに、県内経済団体等と連携し、企業における「健康経営」を推進します。
- ○ 疾病の早期発見、早期治療のためのがん検診及び特定健診の受診率向上に向けた取組を推進します。
- ○ 自殺対策推進協議会を通じて多様な関係者と連携・協力を図りながら、包括的な自殺対策プログラムを推進するほか、新型コロナウイルス感染症の影響に伴うこころの健康の悪化を防止する取組を進めます。
- ○ 即戦力医師の招聘等の取組を推進するとともに、県内看護学生の地元就職や県外就職者のU・Iターンに係る働きかけ等の取組を推進します。
- ○ 余暇時間を増加させるために、「いわてで働こう推進協議会」が中心となり、関係機関が一体となって「働き方改革」を一層推進します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

- ● いわて幸福関連指標11指標は、達成度A指標が4指標（36%）、達成度C、Dの指標が7指標（63%）でした。
- ● この政策分野に係る県民の実感は、「心身の健康」が上昇、「余暇の充実」が低下しました。
- ● この政策分野の取組状況は、介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりの取組が進みましたが、生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境づくりの取組については、遅れが見られています。
- ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、民間団体においても、自殺に関する相談などの取組が行われているなど、県以外の主体においても取組が推進されています。
- ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
1	健康寿命〔平均自立期間〕	年	男性 ㉘ 79.32	③80.60	①80.09	①79.80	C	—	—	—
2			女性 ㉘ 83.96	③84.84	①84.49	①84.31	C	—	—	—
3	がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数〔10万人当たり〕	人	男性 ㉘ 305.1	③273.8	①288.4	①293.1	C	—	—	—
4			女性 ㉘ 158.7	③135.7	①143.5	①156.2	D	—	—	—

指標名		単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
5	自殺者数〔10万人当たり〕	人	21.0	16.0	18.0	21.2	D	46位(5位)	47位(6位)	↘(↘)
6	地域包括ケア関連(元気な高齢者割合)※1	%	98.71	98.86	98.80	99.26	A	—	—	—
7	地域包括ケア関連(在宅医療連携拠点の事業区域数)	箇所	㉚16	27	20	20	A	—	—	—
8	余暇時間〔一日当たり〕※2	分	㉘373	390	382	370	D	—	—	—
9	県内の公立文化施設における催事数※3	件	1,316	1,385	1,358	583	D	—	—	—
10	スポーツ実施率	%	61.7	③65.0	①64.0	①65.3	A	—	—	—
11	生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	40.2	44.2	42.2	44.0	A	—	—	—

※1　全国を100とした水準　　※2　休日を含む1週間の平均
※3　岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数

【参考指標】

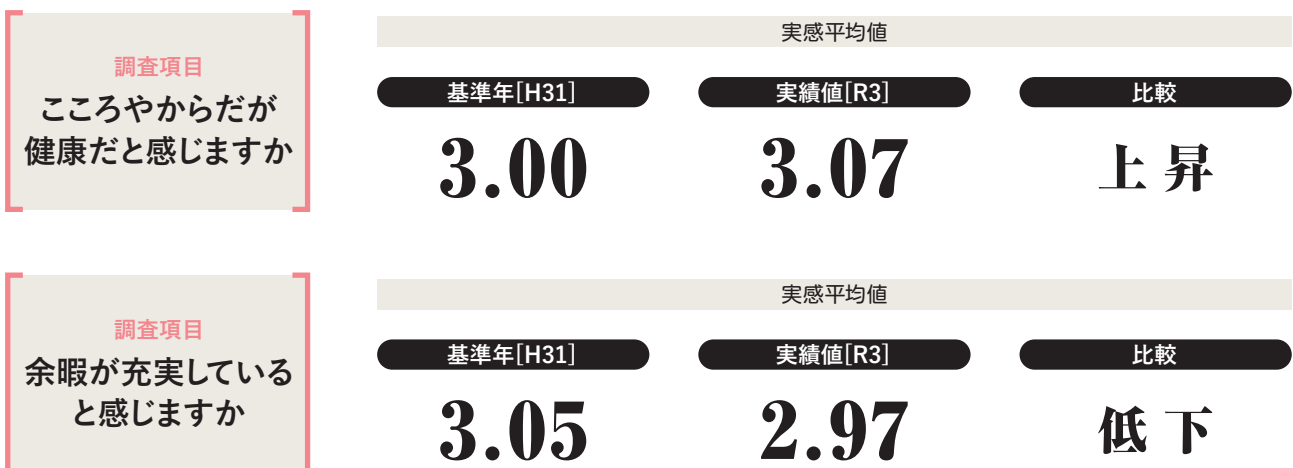
	調査項目	単位	現状値(H29)	R2の値	備考
1	健康寿命〔日常生活に制限のない期間〕	年	男性 ㉘71.85	—	3年ごとの公表
2			女性 ㉘74.46	—	3年ごとの公表
3	喫煙率	%	㉘22.6	①20.9	3年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
こころやからだが健康だと感じますか

実感平均値		
基準年［H31］	実績値［R3］	比較
3.00	3.07	上 昇

調査項目
余暇が充実していると感じますか

実感平均値		
基準年［H31］	実績値［R3］	比較
3.05	2.97	低 下

Ⅱ 家族・子育て

家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手

実感 「家族関係」は横ばい、「子育て」は上昇しました。

指標 「総実労働時間」は B 、「男性の家事時間割合」は C 、「合計特殊出生率」は D となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

令和3年度 健やか親子21全国大会

「切れ目のない妊産婦メンタルヘルスケアの推進」をテーマに基調講演及びパネルディスカッションを実施しました。

県立野外活動センターにおける体験活動

子どもたちの豊かな体験活動の充実のため、県立野外活動センターにおける季節に応じた野外活動を通して、自然に親しみ、興味・関心を高める事業を実施しました。

いわて親子フェスティバル「親子で遊ぼうキッズラボミニ」

「家庭」における対話やふれあいを深める機会として、３Ｄプリンターを使った工作や射的などの親子で楽しめるイベントを開催しました。

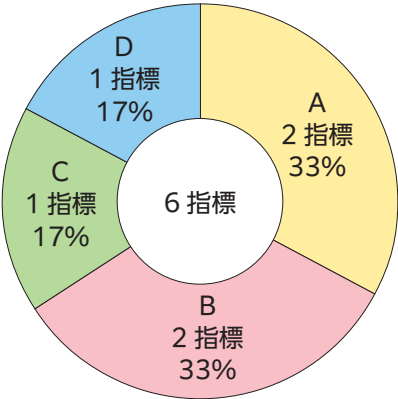
青少年を非行・被害から守る県民大会

青少年への理解を深め、非行・被害防止活動を推進するため、青少年育成に取り組む関係団体等と連携して県民大会を開催しました。

いわて働き方改革 AWARD2021

「いわて働き方改革推進運動」を全県的に推進するため、「いわて働き方改革 AWARD2021」を開催し、優良企業等を表彰しました。

犬・猫の譲渡会

動物愛護団体等と連携した譲渡会の開催により、飼い主に返還されなかった動物について、新しい飼主への譲渡を実施しました。

今後の取組方向

- ○ 結婚サポートセンター「i- サポ」におけるマッチング支援、新規会員の確保に向けた取組を進めます。
- ○ 市町村における産後ケア事業等の実施や保育所等の計画的な整備を促進するとともに、産科診療所の新規開設や設備導入等の支援、周産期救急搬送体制の強化、ハイリスク妊産婦の通院等への支援等を総合的に進めます。
- ○ 学校・家庭・地域が連携・協働した仕組みづくりを進め、地域学校協働活動を充実します。
- ○ 青少年の社会参画の機会を拡大するとともに、困難を抱える青少年が、自主的で自立した活動ができる環境づくりを推進します。
- ○ 働き方改革の推進とともに、テレワーク等の様々な働き方に係る先進事例を広く紹介するなど、働きやすい職場づくりを推進します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

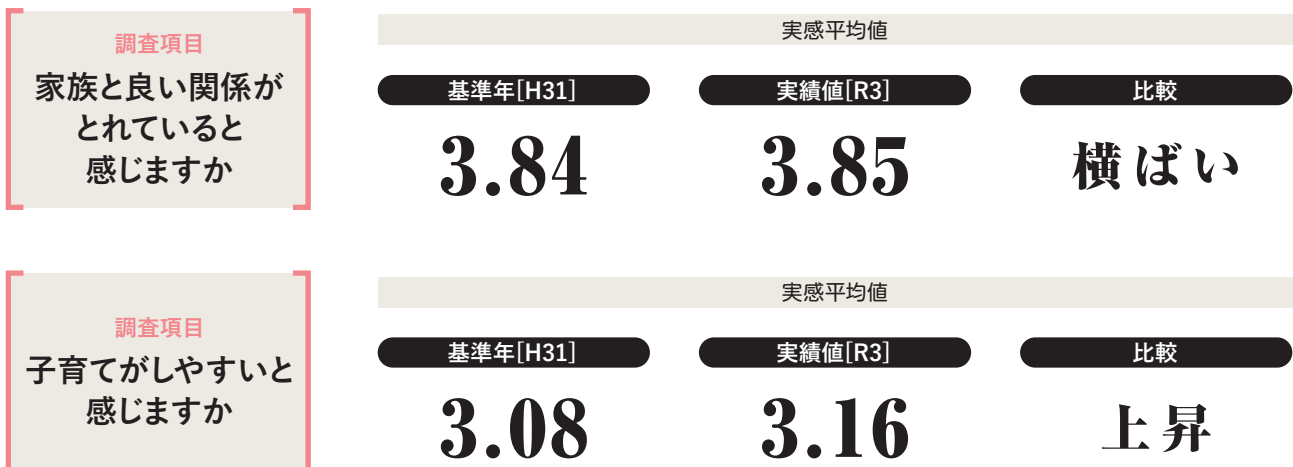
	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
12	合計特殊出生率		1.47	1.58	1.53	1.33	D	33位(2位)	36位(3位)	↘(↘)
13	待機児童数〔4月1日時点〕	人	178	0	49	58	B	24位(4位)	25位(4位)	↘(→)
14	地域の行事に参加している生徒の割合〔中学生〕	%	㉚63.7	64.0	64.0	―	―	2位(1位)	―	―

指標名		単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
15	総実労働時間〔年間〕	時間	1,858.8	1,720.8	1,776.0	1778.4	B	46位(5位)	47位(6位)	↘(↘)
16	共働き世帯の男性の家事時間割合〔週平均〕※	%	34.2	40.0	38.0	36.5	C	—	—	—
17	犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 98.0	99.0	98.6	100.0	A	—	—	—
18			猫 93.5	96.8	95.5	100.0	A	—	—	—

※　女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

調査項目		単位	現状値(H29)	R2の値	備考
4	待機児童数〔10月1日時点〕	人	681	127	—
5	共働き男性の家事時間	分	100	92	—
6	共働き女性の家事時間	分	292	252	—
7	生涯未婚率	%	男性 ㉗26.16	—	5年ごとの公表
8			女性 ㉗13.07	—	5年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

Ⅲ 教育

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手

実感 「子どもの教育」は、上昇しました。

指標 「高卒者の県内就職率」は、B となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

オリンピック・パラリンピック教育の推進

オリンピアン・パラリンピアンを講師として学校に派遣し、オリンピック・パラリンピックのもつ価値を学ぶ機会を提供しました。

「いわての復興教育」

「いわての復興教育」を学んだ高校生が、「地域防災フォーラム」において自分たちにできること、すべきことなどを発表しました。

異文化体験プログラムの実施

県内在住の外国人講師を９名招き、中学生を対象とした外国語や異文化の体験講座を行いました。

スーパーキッズ発掘・育成事業

岩手から世界で活躍するトップアスリートを輩出するため、スーパーキッズに認定された児童・生徒を対象に競技体験トレーニング等を実施しました。

いわて高等教育地域連携プラットフォームの設立

産学官が連携した人材育成を進めるため、「いわて高等教育地域連携プラットフォーム」を設立しました。

オンライン企業説明会

コロナ禍が長期化する中、大学生の就活支援のため、オンラインによる企業説明会を実施しました。

今後の取組方向

○ 児童生徒の資質・能力を育むための授業づくり、道徳教育や各教科等における多様な体験活動、運動（遊び）やスポーツに親しむ習慣を身に付けるための学校・家庭・地域が連携・協働した取組などを推進します。

○ 学生等と企業との交流を通じた県内企業への理解、県内就職への意識の向上、県内での起業を目指す大学生や社会人等を対象とした実務教育による起業支援を通じた雇用の創出等に向けた取組を推進します。

○ 国のＧＩＧＡスクール構想の加速に伴い整備したＩＣＴ機器の効果的な活用等による授業改善を進めます。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

教育分野の評価結果	評価の説明
B	● いわて幸福関連指標 18 指標は、実績値が未確定等の 13 指標を除き、達成度Ａ、Ｂの指標が４指標（80％）、達成度Ｄの指標が１指標（20％）でした。
いわて幸福関連指標の達成度	● この政策分野に係る県民の実感は、「子どもの教育」が上昇しました。
	● この政策分野の取組状況は、共に学び、共に育つ特別支援教育の取組や、児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上の取組が進みましたが、高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの取組については、遅れが見られています。
	● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、各学校において、ＩＣＴ機器を活用した教育活動の充実が図られているほか、家庭・地域・関係機関・団体等と連携したキャリア教育等や人材育成が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。
	◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
19	意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 ㉚80.9	84.9	82.9	−	―	―	―	―
20			中 ㉚77.2	81.2	79.2	−	―	―	―	―
21	授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 ㉚80.7	84.7	82.7	−	―	―	―	―
22			中 ㉚80.0	84.0	82.0	−	―	―	―	―

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
23	人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	小 ㉚66	70	68	69	A	—	—	—
24			中 ㉚64	68	66	68	A	—	—	—
25			高 ㉚57	61	59	—	—	—	—	—
26	自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 ㉚82.3	85.0	83.5	—	—	—	—	—
27			中 ㉚76.9	80.0	78.0	—	—	—	—	—
28	体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小 男子 73.6	75.0	74.0	—	—	14位 (2位)	—	—
29			小 女子 82.9	83.0	83.0	—	—	9位 (2位)	—	—
30			中 男子 77.7	78.0	78.0	—	—	7位 (1位)	—	—
31			中 女子 91.3	91.5	91.5	—	—	8位 (1位)	—	—
32	特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	–	68.0	64.0	60.8	B	—	—	—
33	高卒者の県内就職率	%	65.8	84.5	84.5	71.4	B	39位 (5位)	—	—
34	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 ㉚86.5	88.0	87.0	—	—	—	—	—
35			中 ㉚73.2	76.0	74.5	—	—	—	—	—
36	県内大学等卒業者の県内就職率	%	45.3	51.5	49.5	45.3	D	(1位)	(2位)	(↘)

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R2の値	備考
9	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 ㉚42	—	—
10			小 算数 ㉚50	—	—
11			中 国語 ㉚45	—	—
12			中 数学 ㉚54	—	—
13	不登校児童生徒数〔千人当たり〕	人	小 3.4	小 6.2	—
14			中 25.9	中 33.5	—
15			高 13.1	高 12.9	—

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目

子どものためになる教育が行われていると感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R3]	比較
3.10	3.20	上昇

居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、
助け合って暮らすことができる岩手

実感 「住まいの快適さ」は横ばい、「地域社会とのつながり」は低下しました。

指標 「県外からの移住・定住者数」は C、「地縁的な活動への参加割合」は D となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

県営住宅活用促進モデル事業

若者向けに、自治会や町内会活動への参加などを条件として、Wi-Fi 環境を整備した県営住宅を提供しました。

路線バスにおける交通系ICカード導入支援

路線バス事業者における交通系 IC カードの導入に要する経費に対して補助を行いました。

移住ポータルサイト「イーハトー部に入ろう！」

住まい・子育て・医療に関する情報、先輩移住者や各市町村の移住コーディネーターの紹介等を通じて、いわてで暮らすイメージを具体的に発信しています。

中国・遼寧省と友好交流協力協定締結

岩手県と遼寧省間の友好交流と協力の強化・発展のため、友好交流協力協定をオンラインで締結しました。

復興支援の絆を生かした演奏会

復興支援や文化交流で培った絆を生かして、著名な音楽家等による演奏会を開催しました。

オリンピック聖火リレー

県内 28 市町村を 284 人の聖火ランナーが駆け抜け、令和３年３月の聖火巡回展示と合わせて、県内全市町村に聖火が灯りました。

今後の取組方向

○ 地域公共交通の維持・確保に向け、三陸鉄道などの広域的な幹線路線への支援や効率的で持続可能な地域公共交通体系の構築、市町村における主体的な公共交通施策の支援を進めます。

○ 持続可能な地域コミュニティづくりに向け、市町村との連携を強化しながら、先駆的な活動に取り組む地域コミュニティ団体の認定や活動事例の情報発信、地域おこし協力隊の活動支援等を進めます。

○ 移住希望者の関心を喚起する情報発信や県内企業とのマッチングの強化による岩手ファンの拡大とU・Iターンの促進を図るとともに、移住定住推進体制の強化により、安心して移住し活躍できる環境の整備を進めます。

○ 新型コロナウイルス感染症の影響も把握しながら、文化芸術やスポーツを生かした人的・経済的な交流を推進します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

● いわて幸福関連指標７指標は、達成度Ｂの指標が２指標（29%）、達成度C、Ｄの指標が５指標（72%）でした。

● この政策分野に係る県民の実感は、「住まいの快適さ」が横ばい、「地域社会とのつながり」が低下しました。

● この政策分野の取組状況は、快適で豊かな暮らしを支える生活環境づくりが進みましたが、つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てる取組については、遅れが見られています。

● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において、地域おこし協力隊等による、地域内の自発的な活性化や担い手の育成支援に向けた取組が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。

◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
37	県外からの移住・定住者数	人	1,091	1,757	1,452	1,318	C	―	―	―
38	汚水処理人口普及率	%	80.8	86.5	83.9	83.6	B	35位 (5位)	35位 (5位)	➡ (➡)
39	三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	17.5	17.5	17.5	10.5	C	―	―	―

指標名		単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
40	地縁的な活動への参加割合	%	36.9	43.0	40.0	30.1	D	—	—	—
41	在留外国人数〔10万人当たり〕	人	527.0	748.6	656.5	637.2	B	45位(4位)	45位(4位)	➡(➡)
42	文化・スポーツ施設の入場者数(文化施設入場者数)※1	千人	168	③176	①172	①161	D	—	—	—
43	文化・スポーツ施設の入場者数(スポーツ施設入場者数)※2	万人	805	806	806	552	C	—	—	—

※1　岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数
※2　県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

【参考指標】

調査項目		単位	現状値(H29)	R2の値	備考
16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	2,195	1,269	—
17	持ち家比率	%	㉕68.9	—	5年ごとの公表

［県民意識調査の結果(分野別実感の状況)］

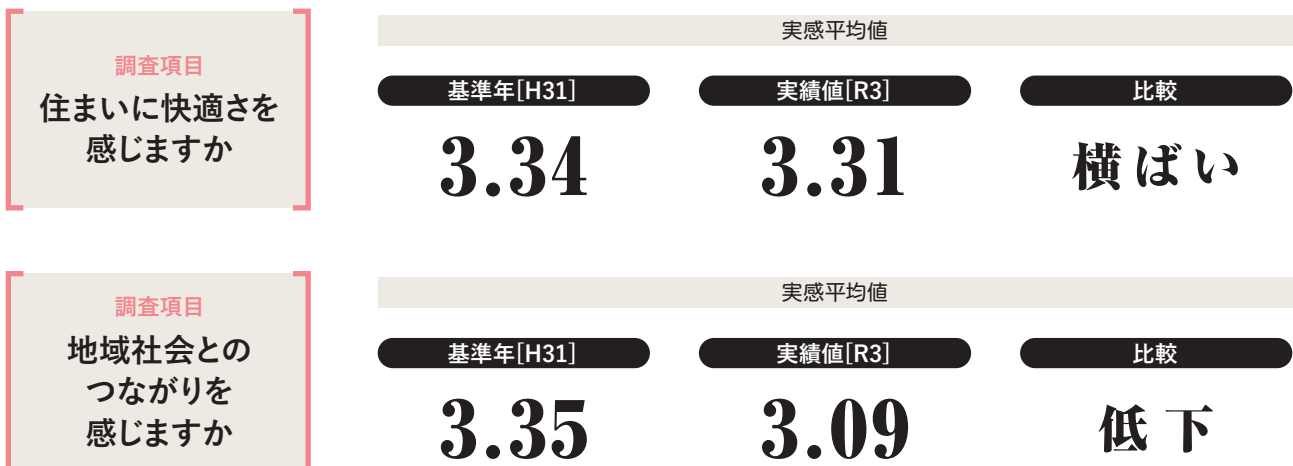
調査項目
住まいに快適さを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R3]	比較
3.34	3.31	横ばい

調査項目
地域社会とのつながりを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R3]	比較
3.35	3.09	低下

安全

**災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手**

実感　「地域の安全」は、低下しました。

指標　「刑法犯認知件数」、「交通事故発生件数」は A 、「自主防災組織の組織率」は B となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

自主防災組織活性化モデル事業

自主防災組織の活性化に向け、モデル地区を選定し、地区で実施した避難訓練の振り返りを行いました。

安全モデル横断歩道における交通安全活動

通学路等に設置している 98 箇所の横断歩道を「安全モデル横断歩道」に指定し、登下校時の子どもの見守り活動等を推進しました。

消費生活出前講座若者編

成年年齢引き下げに対応し、学校等において、若者の消費者トラブル事例や被害に遭わないための注意点など消費生活に関する出前講座を実施しました。

いわて飲食店安心認証制度

安心して飲食できる環境を提供するため、事業者が実施する感染対策について県が認証するいわて飲食店安心認証制度を設け実施しました。

第16回食育推進全国大会inいわて

食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実現するためのイベントをオンラインで開催しました。

ICAT　感染制御研修

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、いわて感染制御支援チーム（ICAT）による感染症に関する基礎知識や感染防護具の着脱方法等に関する研修が行われました。

今後の取組方向

- ○ 県民の防犯意識の高揚をはじめ、犯罪の発生状況に応じた防犯対策の推進や関係機関・防犯ボランティア団体と連携した防犯活動などを進めます。
- ○ 自然災害へのリスクに備えるための防災体制の整備を進める必要があることから、更なる自主防災組織の組織化や活性化の中核を担う人材の育成を推進します。
- ○ 岩手県新型コロナウイルス感染症対策本部のもと、引き続き関係機関と連携した感染症の発生やまん延を防止する対策を推進します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

- ● いわて幸福関連指標４指標は、達成度A、Bの指標が４指標（100%）でした。
- ● この政策分野に係る県民の実感は、「地域の安全」が低下しました。
- ● この政策分野の取組状況は、自助、共助、公助による防災体制づくりや感染症による脅威から一人ひとりの暮らしを守る取組が進みました。
- ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において防災士資格の取得を促し、自主防災組織の中核を担う人材の育成に取り組むなど県以外の主体においても取組が推進されています。
- ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

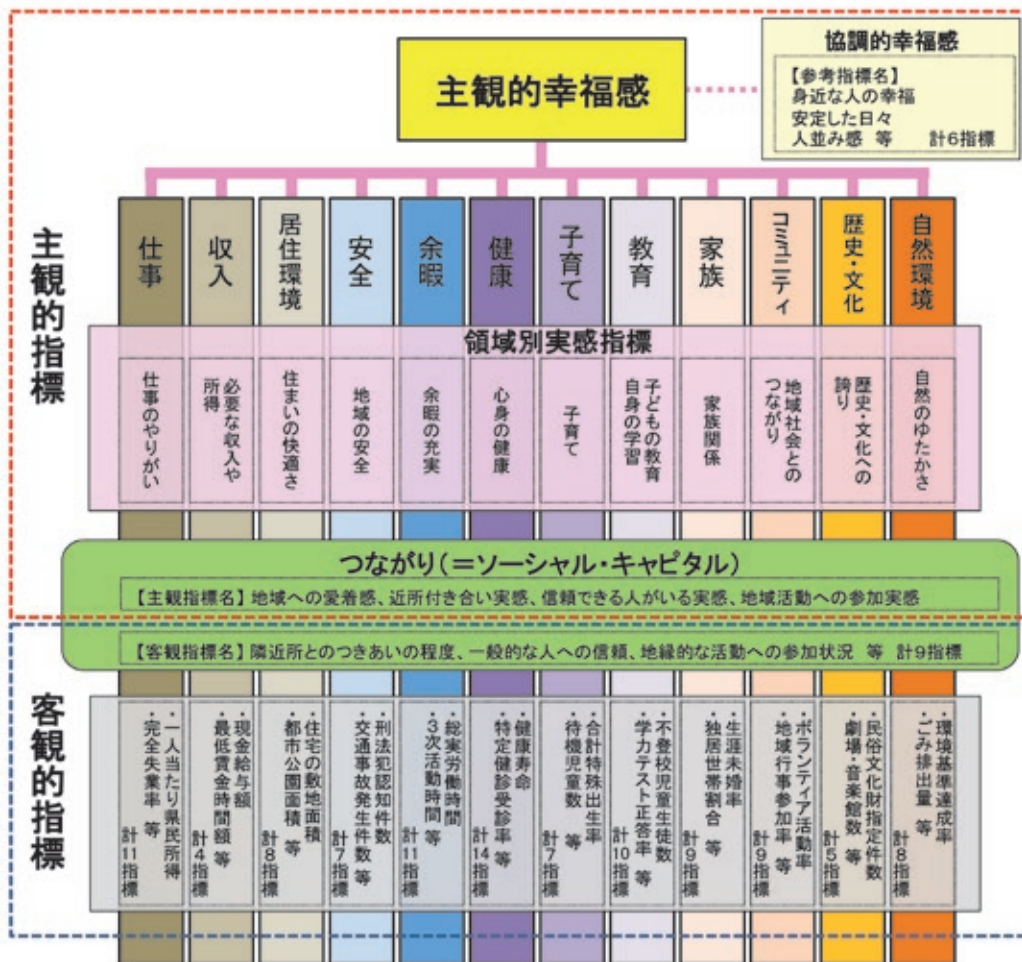
	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
44	自主防災組織の組織率	%	86.9	90.0	88.7	88.5	B	27位(2位)	―	―
45	刑法犯認知件数〔千人当たり〕	件	㉚2.76	2.40	2.56	2.08	A	2位(2位)	1位(1位)	↗(↗)
46	交通事故発生件数〔千人当たり〕	件	㉚1.58	1.20	1.37	1.35	A	2位(1位)	4位(1位)	↘(→)
47	食中毒の発生人数〔10万人当たり〕	人	13.7	13.0	13.4	2.3	A	30位(5位)	6位(1位)	↗(↗)

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目	実感平均値 基準年[H31]	実感平均値 実績値[R3]	比較
お住まいの地域は安全だと感じますか	3.82	3.76	低下

岩手の幸福に関する指標の体系図

いわて県民計画においては、県民や岩手県に関わる人々の幸福を守り育てるため、10 の政策分野を設定するとともに、それぞれに「いわて幸福関連指標」を設定して取組を展開することとしています。

この 10 の政策分野やいわて幸福関連指標の設定に当たっては、県民の「幸福」について的確に把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標研究会」において示された「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討が進められました。

【参照】「岩手の幸福に関する指標」研究会

Ⅵ 仕事・収入

**農林水産業やものづくり産業などの
活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手**

実感 「仕事のやりがい」は横ばい、「必要な収入や所得」は上昇しました。

指標 「一人当たり県民所得」、「総実労働時間【再掲】」、「高卒者の県内就職率【再掲】」は B 、「正社員の有効求人倍率」は D となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

「いわてダ・ヴィンチ2022」の発行

高校生をはじめとした若者等に、県内就職やU・Ｉターン等の意識を高めてもらうため、岩手で働き・暮らす魅力などを紹介する就職情報誌を発行しました。

中国のインターネット通販サイトでの県産品販売

ジェトロと連携し、中国のインターネット通販サイトにおいて、2018 年のミス・インターナショナル中国代表を起用してライブコマースによる県産品販売を行いました。

「東北デスティネーションキャンペーン」の開催

東北デスティネーションキャンペーンの開催を通じ、コロナ禍における誘客拡大を進めました。

サケの回帰率の向上

春先の海水温の上昇など近年の海洋環境の変化に対応するため、大型で遊泳力の高い稚魚の生産技術の開発などを進めています。

岩手ぅんめぇ～もん!! グランプリ2021

県内の６次産業化や農商工連携を推進するため、県産農林水産物を活用した加工食品のコンクールを開催しました。

県産木材の利用促進

県有施設における率先的な利用や、住宅への使用に対する支援など、県産木材の積極的な利用を進めています。

今後の取組方向

○ 新型コロナウイルス感染症の影響で売上げが減少した中小企業者の事業継続に向けて、資金繰りの支援等を進めます。

○ 観光産業の回復と交流人口の拡大に向け、新たな生活様式に沿った旅行スタイルへの対応や多様なニーズに応じた旅行商品造成の促進、農山漁村地域における交流活動をコーディネートする組織の活動の支援等を進めます。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

仕事・収入分野の評価結果	評価の説明
B いわて幸福関連指標の達成度	● いわて幸福関連指標 14 指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が８指標（57%）、達成度Ｄの指標が６指標（43%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「仕事のやりがい」が横ばい、「必要な収入や所得」が上昇しました。 ● この政策分野の取組状況は、地域の産業・雇用に好循環をもたらすものづくり産業の振興や、収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくる取組が進みましたが、地域経済を支える中小企業の振興や、地域経済に好循環をもたらす観光産業を盛んにする取組については遅れがみられています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「いわてで働こう推進協議会」において、各構成団体が、それぞれ県内就職等を支援するなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
48	一人当たり県民所得の水準[※1]	%	㉘88.7	②90.0	㉚90.0	㉚88.8	B	—	—	—
49	正社員の有効求人倍率	倍	0.84	1.03	0.96	0.73	D	35位(5位)	39位(6位)	↘(↘)
50	総実労働時間〔年間〕【再掲】	時間	1,858.8	1,720.8	1,776.0	1,778.4	B	46位(5位)	47位(6位)	↘(↘)
51	完全失業率	%	2.1	1.6	1.8	2.4	D	13位(2位)	24位(2位)	↘(➡)
52	高卒者の県内就職率【再掲】	%	65.8	84.5	84.5	71.4	B	39位(5位)	—	—
53	従業者一人当たりの付加価値額	千円	㉘5,983	③6,164	①6,043	①5,487	D	38位(4位)	42位[※3](6位)	↘[※3](↘)

指標名		単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
54	開業率※2	%	㉘3.2	③3.5	①3.3	①2.9	D	44位(5位)	43位(4位)	↗(↗)
55	従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	㉘27.8	③29.2	①28.7	①30.0	A	38位(4位)	35位(4位)	↗(→)
56	観光消費額	億円	1,816.4	2,028.1	1,943.4	1,142.3	D	(5位)	—	—
57	農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	㉘3,990	③4,510	①4,290	①4,999	A	—	—	—
58	林業就業者一人当たりの木材生産出額	千円	㉘4,450	③4,560	①4,510	①5,070	A	—	—	—
59	漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	㉘4,340	③4,540	①4,460	①4,580	A	—	—	—
60	農林水産物の輸出額	億円	28.2	36.0	32.7	36.0	A	—	—	—
61	グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,156	1,216	1,192	1,048	D	—	—	—

※1 全国を 100 とした標準　※2 雇用保険が新規に成立した事業所の比率
※3 統計データが非公表である、奈良県、高知県を除いた全国順位

【参考指標】

調査項目		単位	現状値(H29)	R2の値	備考
18	非正規職員・従業員率	%	35.7	—	5年ごとの公表
19	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	㉘4,037	㉚4,140	—
20	現金給与総額[5人以上、毎月]	円	277,009	278,867	—
21	農業産出額	億円	㉘2,609	①2,676	—
22	林業産出額	千万円	㉘2,015	①1,925	—
23	漁業産出額	千万円	㉘3,605	①3,461	—
24	製造品出荷額	億円	㉘23,717	①26,262	—
25	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	㉘15,964	①17,783	—
26	食料品製造出荷額	億円	㉘3,660	①3,902	—
27	水産加工品製造出荷額	億円	㉘729	①720	—
28	事業所新設率	%	㉔～㉖16.7	㉙～①13.0	—

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目
仕事にやりがいを感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R3]	比較
3.54	3.49	横ばい

調査項目
必要な収入や所得が得られていると感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R3]	比較
2.65	2.77	上昇

Ⅶ 歴史・文化

**豊かな歴史や文化を受け継ぎ、
愛着や誇りを育んでいる岩手**

実感 「歴史・文化への誇り」は、低下しました。

指標 「国・県指定文化財件数」は B 、「世界遺産等の来訪者数」は D となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録

御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されました。

県立平泉世界遺産ガイダンスセンター

「平泉の文化遺産」の価値を広く世界中に伝え、人類共通の財産として後世へ継承するための拠点となる施設が開館しました。

世界遺産出前授業

県内の児童生徒の世界遺産に対する理解を深めるため、世界遺産出前授業を開催しました。

教員現地研修会

世界遺産の価値や郷土の歴史・文化等について、児童生徒の理解に資するよう、教員を対象とした研修会を開催しました。

岩手県民俗芸能フェスティバル

本県の伝統文化を生かした交流や民俗芸能の魅力を発信するため、オンライン配信を取り入れ「岩手県民俗芸能フェスティバル」を開催しました。

文化財保存活用地域計画協議会

文化財の保存、活用のため、市町村が協議会を設置し、県も委員として参加して「文化財保存活用地域計画」の策定を支援しました。

今後の取組方向

○ 「岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンター」を拠点に、平泉の価値を広く伝え、「平泉の文化遺産」等の周遊へ活用するほか、県内の3つの世界遺産の連携を進め、これらの世界遺産全体の誘客

につなげるための情報発信や、関連文化遺産ネットワークによる交流事業を進めます。

○ 国、県指定文化財の基礎調査などに要する時間を短縮し、円滑な指定を図るための取組を推進します。

○ 民俗芸能活動に取り組む県内外の若者同士の交流に加え、「いわての文化情報大事典」ホームページによるオンライン配信等を通じて、本県の多様な民俗芸能など伝統文化を生かした交流を推進します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

歴史・文化分野の評価結果	評価の説明
C	● いわて幸福関連指標３指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が２指標（66％）、達成度Ｄの指標が１指標（33％）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「歴史・文化への誇り」が低下しました。 ● この政策分野の取組状況は、世界遺産の保存と活用や、伝統文化が受け継がれる環境をつくり交流を広げる取組が進みました。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「平泉の文化遺産」の世界遺産拡張登録に向けて、関係市町において遺跡の調査等が進められています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。

いわて幸福関連指標の達成度

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
62	世界遺産等の来訪者数	千人	927	950	927	444	D	―	―	―
63	国、県指定文化財件数	件	㉚565	581	573	572	B	31位(3位)	31位(3位)	➡(➡)
64	民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	396	396	396	404	A	―	―	―

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
地域の歴史や文化に誇りを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R3]	比較
3.28	3.18	低 下

自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、
自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手

実感　「自然の豊かさ」は横ばいで、依然として高い水準にあります。

指標　「ハヤチネウスユキソウ個体数」、「再生可能エネルギーによる電力自給率」は A 、「イヌワシつがい数」、「自然公園の利用者数」は B となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

イノシシ捕獲技術研修会

生息域の拡大に伴い農業被害が増加しているイノシシの捕獲の強化のため、捕獲技術研修会を実施しました。

十和田八幡平国立公園の受入環境整備

自然公園利用者の安全確保や利便性の向上を図るため、岩手山平笠不動避難小屋の屋根やトイレなどを再整備しました。

森林づくり基金を活用した取組

いわての森林づくり県民税を活用し、手入れが行き届いていない森林の整備を行いました。

三陸ジオパークを活用した野外授業

持続可能な開発のための教育（ESD）の一環として、中学校の理科授業において三陸ジオパークの地質等を観察する野外授業を開催しました。

岩手県3R推進キャラクター「エコロル」による保育園訪問

「ごはんをおいしく、残さず食べよう」など、３R推進や食品ロス削減につながる呼びかけを行いました。

事業者向け省エネルギー対策推進事業

県内の中小事業者等を対象に、省エネルギー効果の高い設備の導入に対する補助を実施しました。

今後の取組方向

○ 県民、事業者、行政等の各主体による３Ｒの取組を促進するため、ごみの分別・持ち帰り、使い捨てプラスチックの発生抑制、食品ロスの削減などの「いわて三ツ星 eco マナーアクション」の普及啓発を進めます。

○ 「第２次岩手県地球温暖化対策実行計画」に基づき、省エネルギー対策の一層の推進や、本県の高いポテンシャルを生かした再生可能エネルギーの導入促進などにより、温室効果ガス排出削減対策を総合的に推進します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

● いわて幸福関連指標７指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が５指標（72%）、達成度Ｄの指標が２指標（29%）でした。

● この政策分野に係る県民の実感は、「自然の豊かさ」が横ばいで、依然として高い水準にあります。

● この政策分野の取組状況は、多様で優れた環境を守り次世代に引き継ぐための取組や、地球温暖化防止に向け低炭素社会の形成を進める取組が進みましたが、循環型地域社会の形成に関する取組については、遅れが見られています。

● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、13 市町村が「2050 年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を表明し、再生可能エネルギーの導入促進などに積極的に取り組むなど、県以外の主体においても取組が推進されています。

◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
65	岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数（イヌワシつがい数）	ペア	29	29	29	26	B	―	―	―
66	岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数（ハヤチネウスユキソウ個体数）	株	667	667	667	971	A	―	―	―
67	自然公園の利用者数※	千人	466	470	470	427	B	―	―	―
68	公共用水域のBOD（生物化学的酸素要求量）等環境基準達成率	%	99.1	99.1	99.1	96.5	B	―	―	―

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R2	比較
69	再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.0	37.0	35.0	41.7	A	—	—	—
70	一般廃棄物の最終処分量	千t	㉘40.6	③35.8	①37.6	①41.3	D	16位(2位)	19位(3位)	↘(↘)
71	一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	㉘501	③465	①483	①512	D	14位(1位)	17位(1位)	↘(➡)

※　自然公園ビジターセンター等利用者数

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R2の値	備考
29	森林面積割合	%	㉖74.9	①74.6	5年ごとの公表

［県民意識調査の結果(分野別実感の状況)］

調査項目

自然に恵まれていると感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R3]	比較
4.21	4.18	横ばい

Ⅸ 社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を
支える社会基盤が整っている岩手

指標　「河川整備率」、「緊急輸送道路の整備延長」は、ともに A となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

いわてDX推進連携会議

オール岩手でＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を推進するために産学官金の連携組織を設置しました。

簗川ダム

令和３年６月に完成し、洪水被害の軽減や水道用水の確保のほか、水力発電所としても活用しています。

クルーズ船の寄港

令和２年度においてコロナ禍で相次いで中止となっていたクルーズ船の本県への寄港は、安心･安全な受入態勢を確保した上で、令和３年４月に再開され、同年12月までに３回の寄港がありました。

農業生産基盤の整備

東日本大震災津波により被災した宇部川地区では復旧と併せ行うほ場整備工事が完了し、米の作付が行われています。

住民協働の維持管理

住民との協働により、河川や海岸の清掃等の維持管理に取り組んでいます。

建設業経営基盤強化（ICT関係）

建設現場へ情報通信技術（ICT）活用の普及推進を図るため、基礎技術研修会を開催しました。

今後の取組方向

○ 県民への科学・情報技術の普及啓発、産学官金の連携による県全体でのDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進します。

○ モバイル端末（スマートフォン）の利用環境の向上に向け、通信事業者や市町村と連携した情報通信インフラの整備促進やICTリテラシーの向上などを進めます。

○ 産業振興や観光振興を支える道路整備や港湾・空港の機能拡充、農林水産業の生産基盤の整備を進めるとともに、港湾や空港等の社会資本の利活用を推進します。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）…ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

社会基盤分野の評価結果	評価の説明
B	● いわて幸福関連指標５指標は、達成度A、Bの指標が４指標（80％）、達成度Dの指標が１指標（20％）でした。 ● この政策分野の取組状況は、安全・安心を支える社会資本の整備や生活を支える社会資本を良好に維持管理し、次世代に引き継ぐ取組が進みましたが、科学・情報技術を活用できる基盤を強化する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、国において、三陸沿岸道路等高規格道路の整備が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

いわて幸福関連指標の達成度

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考)全国順位(東北順位) H29	R2	比較
72	モバイル端末（スマートフォン）の人口普及率	%	51.5	78.1	67.3	58.9	D	42位(3位)	43位(2位)	↘(↗)
73	河川整備率	%	48.9	51.3	50.0	50.6	A	(1位)	—	—
74	緊急輸送道路の整備延長	km	−	38.1	21.8	25.3	A	—	—	—
75	港湾取扱貨物量	万t	606	711	614	564	B	35位(5位)	—	—
76	社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	㉚413	413	413	420	A	—	—	—

X 参画

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

指標 「障がい者の雇用率」は A 、「高齢者のボランティア活動比率」は B 、「男性の家事時間割合【再掲】」は C 、「労働者総数に占める女性の割合」は D となりました。

令和３年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

いわて男女共同参画社会づくり表彰

男女共同参画の推進に向けた機運の醸成を図るため、男女共同参画社会づくりに功績のあった個人・団体を表彰しました。

出張いわてネクジェネトークセッション2021

ウイズコロナ、アフターコロナを見据え、若者の視点で「デジタル化」について考えるトークセッションをオンライン併用で開催しました。

女性農林漁業者と女子学生による交流会

若年女性に農林水産業の魅力を伝えるとともに、女性が活躍できる職場環境づくりに向けた意見交換を行いました。

いわて女性活躍認定企業等の認定

女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業等を「いわて女性活躍認定企業等」として認定しました。

老人クラブの社会参加活動等

老人クラブが行う高齢者の社会参加や生きがいづくりの活動等に対し補助を行いました。

社会のニーズに対応したNPOの活動

読み聞かせや図書の貸出を通じた子育て支援など、地域課題の解決に取り組むＮＰＯの活動を支援しました。

今後の取組方向

○ 「いわて女性活躍企業等認定制度」などの普及や経営者等への意識啓発により、女性が活躍できる環境づくりを推進します。

○ 企業等における男性が仕事と家事・育児等を両立できる職場環境づくりの優良事例の創出や情

報発信等により、若年女性の県内就業を推進します。

○ 高齢者の自主的な社会貢献活動に係る相談対応や取組事例の紹介等を行うとともに、生活支援コーディネーターの養成を行うなど、高齢者の社会貢献活動への参加促進を支援します。

○ ＮＰＯ活動交流センターを拠点とした情報発信等による参画の機運醸成や実践の場の提供、協働事例の紹介等による他分野への展開、ＮＰＯ法人への活動費助成等による運営基盤強化、デジタル技術の活用等のセミナー開催や人材育成のための交流の場づくりなど創意工夫を凝らした活動へ支援します。

令和３年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

● いわて幸福関連指標６指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が２指標（34%）、達成度Ｃ、Ｄの指標が４指標（67%）でした。

● この政策分野の取組状況は、幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進する取組が進みましたが、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくる取組については、遅れが見られています。

● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、金融機関、中間支援ＮＰＯ、税理士会、行政書士会により構成する「いわてソーシャルビジネスサポートネットワーク」において、地域課題解決に取り組むＮＰＯ法人等の支援が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。

◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、D と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R2)	実績値(R2)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R2	比較
77	労働者総数に占める女性の割合	%	38.1	40.7	39.6	38.3	D	17位(4位)	15位(4位)	↗(➡)
78	障がい者の雇用率	%	2.16	2.30	2.20	2.28	A	16位(1位)	22位(2位)	↘(↘)
79	高齢者のボランティア活動比率	%	–	28.9	28.7	28.1	B	—	—	—
80	共働き世帯の男性の家事時間割合〔週平均〕※【再掲】	%	34.2	40.0	38.0	36.5	C	—	—	—
81	審議会等委員に占める女性の割合	%	㉚37.4	40.0	40.0	36.9	D	17位(2位)	—	—
82	ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	18.6	20.6	19.8	13.5	D	—	—	—

※　女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R2の値	備考
30	管理職に占める女性の割合	%	12.3	—	5年ごとの調査

第4部

データ編

岩手県｜八幡平市｜八幡沼

第4部 データ編

（第３部に使用した「いわて幸福関連指標」、「参考指標」のデータ一覧）

○**政策分野の評価**

・A B C Dの４段階で判定しています。
・いわて幸福関連指標の状況、県民意識の状況及び政策分野を取り巻く状況を踏まえ、総合的に評価を行っています。
・「R1」は、令和元年度のいわて幸福関連指標の状況等に基づく令和２年度の評価結果を、
「R2」は、令和２年度のいわて幸福関連指標の状況等に基づく令和３年度の評価結果を、それぞれ記載しています。

○**達成度**

各年度の目標値に対する達成率（%）に応じて下の表のとおり判定しています。

達　成　度	目標達成率
達　　成【A】	100%以上
概ね達成【B】	80%以上100%未満
やや遅れ【C】	60%以上80%未満
遅　　れ【D】	60%未満

目標達成率の計算式

①通常の指標（H29現状値から数値を上げる目標の場合）：
（年度実績値－H29現状値）/（年度目標値－H29現状値）×100

②マイナス指標（H29現状値から数値を下げる目標の場合）：
（H29現状値－年度実績値）/（H29現状値－年度目標値）×100

③維持指標等（H29現状値等を維持する目標等の場合）：（年度実績値）/（R２目標値等）×100

※累計指標のうち、Ｒ２年度を累計の開始年としている指標など、この計算式により難い場合は、次の計算式により算出しています。
目標達成率＝（年度実績値）/（年度目標値）×100

※計画目標値（R２）を設定していない場合の進捗率は、当該指標の最終目標年度の進捗率を表示しています。

○**補足**

※▼印の指標は、H29現状値から数値を下げることを目標とするものです。
※◆印の指標は、H29現状値等を維持することを目標とするものです。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値が確定していない指標や順位を測定できない指標などは「－」と表示しています。
※進捗率について、新型コロナウイルス感染症の影響により、統計調査が行われなかったため確定していない指標は、「調査なし」と表示しています。

政策分野	政策分野の評価 R1	政策分野の評価 R2	指標 いわて幸福関連指標	指標 参考指標	指標名	単位	現状値（H29）	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値（R4）	実績値 R1	実績値 R2	達成度 R1	達成度 R2	進捗率（対R4目標）	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 R2	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 R2	東北順位 H29との比較	出典
Ⅰ健康・余暇	C	C	1		健康寿命［平均自立期間］	年	男㉘ 79.32	㉚ 79.83	① 80.09	② 80.34	③ 80.60	㉚ 79.63	① 79.80	C	C	37.5	-	-	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
			2			年	女㉘ 83.96	㉚ 84.31	① 84.49	② 84.66	③ 84.84	㉚ 84.18	① 84.31	C	C	39.8	-	-	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
			3		▼がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数［10万人当たり］	人	男㉘ 305.1	㉚ 295.9	① 288.4	② 281.0	③ 273.8	㉚ 298.2	① 293.1	C	C	38.3	-	-	-	-	-	-	-	-	人口動態統計（厚生労働省）
			4			人	女㉘ 158.7	㉚ 147.5	① 143.5	② 139.5	③ 135.7	㉚ 157.7	① 156.2	D	D	10.9	-	-	-	-	-	-	-	-	人口動態統計（厚生労働省）
			5		▼自殺者数［10万人当たり］	人	21.0	19.0	18.0	17.0	16.0	20.5	21.2	D	D	-4.0	46	46	47	下降	5	5	6	下降	人口動態統計（厚生労働省）
			6		地域包括ケア関連（元気な高齢者割合）※全国を100とした水準	%	98.71	98.77	98.80	98.83	98.86	99.07	99.26	A	A	366.7	-	-	-	-	-	-	-	-	介護保険事業状況報告（厚生労働省）
			7		地域包括ケア関連（在宅医療連携拠点の事業区域数）	箇所	㉚ 16	17	20	24	27	20	20	A	A	36.4	-	-	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
			8		余暇時間［一日当たり］※休日を含む１週間の平均	分	㉘ 373	378	382	386	390	372	370	D	D	-17.6	-	-	-	-	-	-	-	-	社会生活基本調査（総務省）、県民意識調査（岩手県）
			9		県内の公立文化施設における催事数 ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数	件	1,316	1,344	1,358	1,372	1,385	1,261	583	D	D	-1062.3	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
			10		スポーツ実施率	%	61.7	㉚ 63.5	① 64.0	② 64.5	③ 65.0	㉚ 63.5	① 65.3	A	A	109.1	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
			11		生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	40.2	41.2	42.2	43.2	44.2	42.7	44.0	A	A	95.0	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県）県民生活基本調査（岩手県）
				1	健康寿命［日常生活に制限のない期間］	年	男㉘ 71.85	-	-	-	-	-	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究
				2		年	女㉘ 74.46	-	-	-	-	-	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究
				3	喫煙率	%	㉘ 22.6	-	-	-	-	-	① 20.9	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	国民生活基礎調査（厚生労働省）
Ⅱ家族・子育て	B	B	12		合計特殊出生率		1.47	1.51	1.53	1.55	1.58	1.35	1.33	D	D	-127.3	33	37	36	下降	2	4	3	下降	人口動態統計（厚生労働省）
			13		▼待機児童数［４月１日時点］	人	178	97	49	0	0	175	58	D	B	67.4	24	28	25	下降	4	4	4	横ばい	保育所等利用待機児童数調査（厚生労働省）
			14		◆地域の行事に参加している生徒の割合［中学生］	%	㉚ 63.7	64.0	64.0	64.0	64.0	70.4	-	A	－	調査なし	2	3	-	-	1	1	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			15		▼総実労働時間［年間］	時間	1,858.8	1,803.6	1,776.0	1,748.4	1,720.8	1,812.0	1,778.4	B	B	58.3	46	47	47	下降	5	6	6	下降	毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）
			16		共働き世帯の男性の家事時間割合［週平均］※女性の家事時間に対する割合	%	34.2	37.0	38.0	39.0	40.0	41.3	36.5	A	C	39.7	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県）県民生活基本調査（岩手県）
			17		犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 98.0	98.4	98.6	98.8	99.0	100.0	100.0	A	A	200.0	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ

政策分野	政策分野の評価 R1	政策分野の評価 R2	いわて幸福関連指標	参考指標	指標名	単位	現状値（H29）	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値（R4）	実績値 R1	実績値 R2	達成度 R1	達成度 R2	進捗率（対R4目標）	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 R2	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 R2	東北順位 H29との比較	出典
II 家族・子育て	B	B	18		犬、猫の返還・譲渡率	%	猫 93.5	94.8	95.5	96.1	96.8	98.8	100.0	A	A	197.0	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
				4	待機児童数 ［10月1日時点］	人	681	-	-	-	-	467	127	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	保育所等利用待機児童数調査（厚生労働省）
				5	共働き男性の家事時間	分	100	-	-	-	-	128	92	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県） 県民生活基本調査（岩手県）
				6	共働き女性の家事時間	分	292	-	-	-	-	314	252	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県） 県民生活基本調査（岩手県）
				7	生涯未婚率	%	男 ㉗ 26.16	-	-	-	-	-	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	国勢調査（総務省）
				8		%	女 ㉗ 13.07	-	-	-	-	-	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	国勢調査（総務省）
III 教育	B	B	19		意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 ㉚ 80.9	81.9	82.9	83.9	84.9	82.1	-	A	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			20			%	中 ㉚ 77.2	78.2	79.2	80.2	81.2	78.4	-	A	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			21		授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 ㉚ 80.7	81.7	82.7	83.7	84.7	78.9	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			22			%	中 ㉚ 80.0	81.0	82.0	83.0	84.0	77.8	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			23		人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	小 ㉚ 66	67	68	69	70	69	69	A	A	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ
			24			%	中 ㉚ 64	65	66	67	68	65	68	A	A	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ
			25			%	高 ㉚ 57	58	59	60	61	49	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ
			26		自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 ㉚ 82.3	83.0	83.5	84.0	85.0	80.5	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			27			%	中 ㉚ 76.9	77.0	78.0	79.0	80.0	72.6	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			28		体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小 男 73.6	74.0	74.0	74.5	75.0	73.1	-	D	－	調査なし	14	9	-	-	2	2	-	-	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
			29			%	◆小 女 82.9	83.0	83.0	83.0	83.0	82.2	-	B	－	調査なし	9	10	-	-	2	2	-	-	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
			30			%	◆中 男 77.7	78.0	78.0	78.0	78.0	75.7	-	B	－	調査なし	7	7	-	-	1	1	-	-	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
			31			%	◆中 女 91.3	91.5	91.5	91.5	91.5	90.0	-	B	－	調査なし	8	12	-	-	1	1	-	-	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
			32		特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	－	62.0	64.0	66.0	68.0	62.0	60.8	A	B	89.4	-	-	-	-	-	-	-	-	県教育委員会調べ
			33		◆高卒者の県内就職率	%	65.8	84.5	84.5	84.5	84.5	68.5	71.4	B	B	41.4	39	-	-	-	5	-	-	-	岩手労働局調査
			34		将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 ㉚ 86.5	86.7	87.0	87.5	88.0	84.6	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			35			%	中 ㉚ 73.2	74.0	74.5	75.5	76.0	73.1	-	D	－	調査なし	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			36		県内大学等卒業者の県内就職率	%	45.3	48.5	49.5	50.5	51.5	43.8	45.3	D	D	0.0	-	-	-	-	1	2	2	下降	岩手労働局調査
				9	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 ㉚ 42	-	-	-	-	34	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
				10		%	小 算数 ㉚ 50	-	-	-	-	48	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
				11		%	中 国語 ㉚ 45	-	-	-	-	44	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
				12		%	中 数学 ㉚ 54	-	-	-	-	53	-	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
				13	不登校児童生徒数 ［千人当たり］	人	小 3.4	-	-	-	-	5.5	6.2	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）
				14		人	中 25.9	-	-	-	-	31.1	33.5	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）
				15		人	高 13.1	-	-	-	-	13.0	12.9	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

政策分野	政策分野の評価 R1	政策分野の評価 R2	指標 いわて幸福関連指標	指標 参考指標	指標名	単位	現状値(H29)	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値(R4)	実績値 R1	実績値 R2	達成度 R1	達成度 R2	進捗率(対R4目標)	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 R2	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 R2	東北順位 H29との比較	出典
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	C	C	37		県外からの移住・定住者数	人	1,091	1,320	1,452	1,597	1,757	1,190	1,318	D	C	34.1	-	-	-	-	-	-	-	-	県商工労働観光部調べ
			38		汚水処理人口普及率	%	80.8	82.7	83.9	85.2	86.5	82.6	83.6	B	B	49.1	35	-	35	横ばい	5	-	5	横ばい	県県土整備部調べ
			39		◆三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	16.1	10.5	B	C	38.0	-	-	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ
			40		地縁的な活動への参加割合	%	36.9	39.0	40.0	41.5	43.0	35.7	30.1	D	D	-111.5	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
			41		在留外国人数 [10万人当たり]	人	527.0	612.6	656.5	702.1	748.6	661.3	637.2	A	B	49.7	45	-	45	横ばい	4	-	4	横ばい	在留外国人統計(法務省)
			42		(文化施設入場者数) ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数	千人	168	㉚ 170	① 172	② 174	③ 176	㉚ 185	① 161	A	D	-87.5	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
			43		(スポーツ施設入場者数) ※◆県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数	万人	805	806	806	806	806	757	552	B	C	40.6	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
				16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	2,195	-	-	-	-	1,978	1,269	—	—	—	-	-	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ
				17	持ち家比率	%	㉕ 68.9	-	-	-	-	-	-	—	—	—	-	-	-	-	-	-	-	-	国勢調査(総務省)
Ⅴ 安全	C	B	44		自主防災組織の組織率	%	86.9	88.1	88.7	89.4	90.0	87.9	88.5	B	B	51.6	27	-	-	-	2	-	-	-	消防防災・震災対策現況調査(消防庁)
			45		▼刑法犯認知件数 [千人当たり]	件	㉚ 2.76	2.64	2.56	2.48	2.40	2.47	2.08	A	A	188.9	2	2	1	上昇	2	2	1	上昇	県警察本部調べ
			46		▼交通事故発生件数 [千人当たり]	件	㉚ 1.58	1.47	1.37	1.28	1.20	1.59	1.35	D	A	60.5	2	6	4	下降	1	2	1	横ばい	県警察本部調べ
			47		▼食中毒の発生人数 [10万人当たり]	人	13.7	13.5	13.4	13.2	13.0	2.3	2.3	A	A	1628.6	30	3	6	上昇	5	2	1	上昇	食中毒統計資料(厚生労働省)
Ⅵ 仕事・収入	C	B	48		◆一人当たり県民所得の水準 ※全国を100とした水準	%	㉘ 88.7	㉙ 90.0	㉚ 90.0	① 90.0	② 90.0	㉙ 86.9	㉚ 88.8	B	B	48.8	-	-	-	-	-	-	-	-	県民経済計算年報(内閣府経済社会総合研究所)
			49		正社員の有効求人倍率	倍	0.84	0.92	0.96	1.00	1.03	0.86	0.73	D	D	-57.9	35	41	39	下降	5	6	6	下降	一般職業紹介状況(岩手労働局)
			50		▼総実労働時間 [年間]【再掲】	時間	1,858.8	1,803.6	1,776.0	1,748.4	1,720.8	1,812.0	1,778.4	B	B	58.3	46	47	47	下降	5	6	6	下降	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)
			51		▼完全失業率	%	2.1	1.9	1.8	1.7	1.6	2.1	2.4	D	D	-60.0	13	23	24	下降	2	2	2	横ばい	労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局)
			52		◆高卒者の県内就職率【再掲】	%	65.8	84.5	84.5	84.5	84.5	68.5	71.4	B	B	41.4	39	-	-	-	5	-	-	-	岩手労働局調査
			53		従業者一人当たりの付加価値額	千円	㉘ 5,983	㉚ 5,983	① 6,043	② 6,103	③ 6,164	㉚ 5,727	① 5,487	B	D	-274.0	38	41	42	下降	4	5	6	下降	企業活動基本調査(経済産業省)
			54		開業率 ※雇用保険が新規に成立した事業所の比率	%	㉘ 3.2	㉚ 3.2	① 3.3	② 3.4	③ 3.5	㉚ 3	① 2.9	A	D	-100.0	44	40	43	上昇	5	3	4	上昇	雇用保険事業年報(厚生労働省)
			55		従業者一人当たりの製造品出荷額 ※R2の全国順位は、奈良県、高知県を除いた順位	百万円	㉘ 27.8	㉚ 28.4	① 28.7	② 28.9	③ 29.2	㉚ 31.0	① 30.0	A	A	157.1	38	-	35	上昇	4	-	4	横ばい	工業統計調査(経済産業省)
			56		観光消費額	億円	1,816.4	1,901.1	1,943.4	1,985.8	2,028.1	1,754.6	1,142.3	D	D	-318.4	-	-	-	-	5	-	-	-	県観光入込客統計
			57		農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	㉘ 3,990	㉚ 4,190	① 4,290	② 4,400	③ 4,510	㉚ 4,601	① 4,999	A	A	194.0	-	-	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
			58		林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	㉘ 4,450	㉚ 4,490	① 4,510	② 4,540	③ 4,560	㉚ 5,030	① 5,070	A	A	563.6	-	-	-	-	-	-	-	-	生産林業所得累計統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
			59		漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	㉘ 4,340	㉚ 4,420	① 4,460	② 4,500	③ 4,540	㉚ 4,833	① 4,580	A	A	120.0	-	-	-	-	-	-	-	-	漁業産出額統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
			60		農林水産物の輸出額	億円	28.2	31.1	32.7	34.3	36.0	36.7	36.0	A	A	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県貿易等実態調査(県商工、日本貿易振興機構)
			61		グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,156	1,180	1,192	1,204	1,216	1,184	1,048	A	D	-180.0	-	-	-	-	-	-	-	-	県農林水産部調べ
				18	非正規職員・従業員率	%	35.7	-	-	-	-	-	-	—	—	—	-	-	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)
				19	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	㉘ 4,037	-	-	-	-	-	㉚ 4,140	—	—	—	-	-	-	-	-	-	-	-	県民経済計算(総務省)
				20	現金給与総額 [5人以上、毎月]	円	277,009	-	-	-	-	280,218	278,867	—	—	—	-	-	-	-	-	-	-	-	毎月勤労統計調査(厚生労働省)

政策分野	政策分野の評価 R1	政策分野の評価 R2	指標 いわて幸福関連指標	指標 参考指標	指標名	単位	現状値（H29）	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値（R4）	実績値 R1	実績値 R2	達成度 R1	達成度 R2	進捗率（対R4目標）	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 R2	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 R2	東北順位 H29との比較	出典
Ⅵ 仕事・収入	C	B		21	農業産出額	億円	㉘ 2,609	-	-	-	-	㉚ 2,727	① 2,676	–	–	–	-	-	① 10	-	-	-	① 2	-	生産農業所得統計等（農林水産省）
				22	林業産出額	千万円	㉘ 2,015	-	-	-	-	㉚ 1,968	① 1,925	–	–	–	-	-	① 5	-	-	-	① 1	-	農林水産統計（農林水産省）
				23	漁業産出額	千万円	㉘ 3,605	-	-	-	-	㉚ 3,788	① 3,461	–	–	–	-	-	① 12	-	-	-	① 3	-	農林水産統計（農林水産省）
				24	製造品出荷額	億円	㉘ 23,717	-	-	-	-	㉚ 27,272	① 26,262	–	–	–	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査（経済産業省）
				25	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	㉘ 15,964	-	-	-	-	㉚ 18,647	① 17,783	–	–	–	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査（経済産業省）
				26	食料品製造出荷額	億円	㉘ 3,660	-	-	-	-	㉚ 3,870	① 3,902	–	–	–	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査（経済産業省）
				27	水産加工品製造出荷額	億円	㉘ 729	-	-	-	-	㉚ 732	① 720	–	–	–	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査（経済産業省）
				28	事業所新設率	%	㉔～㉖ 16.7	-	-	-	-	-	㉙～① 13.0	–	–	–	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス（総務省）
Ⅶ 歴史・文化	B	C	62		世界遺産等の来訪者数	千人	927	927	927	937	950	885	444	B	D	46.7	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
			63		国、県指定文化財件数	件	㉚ 565	569	573	577	581	568	572	C	B	43.8	31	30	31	横ばい	3	3	3	横ばい	県教育委員会調べ
			64		◆民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	396	396	396	396	396	405	404	A	A	51.1	-	-	-	-	-		-	-	県文化スポーツ部調べ
Ⅷ 自然環境	B	B	65		◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数（イヌワシつがい数）	ペア	29	29	29	29	29	27	26	B	B	45.7	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境保健研究センター調べ
			66		◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数（ハヤチネウスユキソウ個体数）	株	667	667	667	667	667	1,021	971	A	A	74.7	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
			67		◆自然公園の利用者数 ※自然公園ビジターセンター等利用者数	千人	466	470	470	470	470	576	427	A	B	53.4	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
			68		◆公共用水域のBOD（生物化学的酸素要求量）等環境基準達成率	%	99.1	99.1	99.1	99.1	99.1	98.2	96.5	B	B	49.1	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
			69		再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.0	29.0	35.0	36.0	37.0	34.4	41.7	A	A	152.2	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
			70		▼一般廃棄物の最終処分量	千t	㉘ 40.6	㉚ 38.6	① 37.6	② 36.7	③ 35.8	㉚ 41.3	① 41.3	D	D	-14.6	16	17	19	下降	2	3	3	下降	一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）
			71		▼一人1日当たり家庭系ごみ（資源になるものを除く）排出量	g	㉘ 501	㉚ 492	① 483	② 474	③ 465	㉚ 506	① 512	D	D	-30.6	14	17	17	下降	1	1	1	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）
				29	森林面積割合	%	㉖ 74.9	-	-	-	-	-	① 74.6	–	–	–	-	-	10	-	-	-	1	-	農林業センサス（農林水産省）
Ⅸ 社会基盤	B	B	72		モバイル端末（スマートフォン）の人口普及率	%	51.5	61.9	67.3	72.7	78.1	56.0	58.9	D	D	27.8	42	45	43	下降	3	4	2	上昇	通信利用動向調査(総務省)
			73		河川整備率	%	48.9	49.3	50.0	50.8	51.3	49.3	50.6	A	A	70.8	-	-	-	-	1	1	-	-	県県土整備部調べ
			74		緊急輸送道路の整備延長	km	-	8.2	21.8	25.9	38.1	6.6	25.3	B	A	66.4	-	-	-	-	-	-	-	-	県県土整備部調べ
			75		港湾取扱貨物量	万t	606	596	614	623	711	635	563	A	B	79.2	35	-	-	-	5	-	-	-	港湾統計（国土交通省）
			76		◆社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	㉚ 413	413	413	413	413	413	420	A	A	50.4	-	-	-	-	-	-	-	-	県県土整備部調べ
Ⅹ 参画	B	D	77		労働者総数に占める女性の割合	%	38.1	39.1	39.6	40.1	40.7	37.2	38.3	D	D	7.7	17	21	15	上昇	4	4	4	横ばい	賃金構造基本統計調査（厚生労働省）
			78		障がい者の雇用率	%	2.16	2.20	2.20	2.30	2.30	2.27	2.28	A	A	85.7	16	19	22	下降	1	2	2	下降	障害者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）
			79		高齢者のボランティア活動比率	%	-	28.6	28.7	28.8	28.9	26.4	28.1	B	B	97.2	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県） 県民生活基本調査（岩手県）
			80		共働き世帯の男性の家事時間割合［週平均］【再掲】 ※女性の家事時間に対する割合	%	34.2	37.0	38.0	39.0	40.0	41.3	36.5	A	C	39.7	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県） 県民生活基本調査（岩手県）
			81		審議会等委員に占める女性の割合	%	㉚ 37.4	38.7	40.0	40.0	40.0	35.6	36.9	D	D	-19.2	17	-	-	-	2	-	-	-	県環境生活部調べ
			82		ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	18.6	19.4	19.8	20.2	20.6	15.7	13.5	D	D	-255.0	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県）
				30	管理職に占める女性の割合	%	12.3	-	-	-	-	-	-	–	–	–	-	-	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査（総務省）

岩手県政策企画部政策企画課

〒020-8570 盛岡市内丸 10- 1
TEL 019-629-5509
https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/suishin/1018014/index.html